

總會 議事錄

食糧問題調查會

三
号

国立公文書館	
分類	⑤
排架 番号	2 A
	86
	⑤ 537

目次

一 第一回總會議事概要

二 第二回

三 第三回

四 第四回

人口食糧問題調査會第一回委員總會
議事概要

一日 時 昭和二年七月二十日(水)午前十一時開會

二場 所 於首相官邸

三出席者 別紙ノ通

一議 事 (別紙順序書参照)大体左記ノ如ク進行
ス

(イ)開會 劈頭田中總理大臣ノ挨拶アリ(別冊)

(ロ)次デ去ル十八日幹事會ニ於テ決定シタル議事
規則(別紙)ヲ付議ス、村瀨幹事全文朗讀ノ上
賛否ヲ求メタルトコロ全會一致ヲ以テ原案ヲ可決

ス

(イ) 議事規則決定シタルヲ以テ田中會長ハ委員及臨時委員ノ議席ノ抽籤ヲ幹事ニ任セラレ度キ旨ヲ諮リタルニ之ハ全會異議ナク贊成ス

(ニ) 次ニ諮詢第一號及同第二號(別紙)ノ全文ヲ村瀨幹事ヲシテ朗讀セシメ 最後ニ委員及臨時委員ノ配屬及議席番號ヲ記載シタル表ヲ配布スベキ旨ヲ宣シ書記ヲシテ配布セシム、配布終ルヤ會長ハ旅行ノ爲中退席スヘキ旨ヲ述ベ

●會長 今回ノ總會ニ於テハ質問ニ答フルノ機會ナク定ニ遺憾トスル所デアルガ若シ總會ニ於テ特ニ質問御希望ナラバ更ニ適當ノ時機ヲ選ビ總會ヲ開會スルガ其ノ必要ナレトノ御意見ナラバ

直チニ部會ヲ開イテ夫々協議スルコトニ致シ度シ

●柳澤委員 政府ハ本日諮詢第一號及第二號ニ對シ相當ノ案ヲ有スルカ

會長 参考案トシテ追テ政府ノ案ヲ配付スル考ヘナリ

●内田(嘉吉)委員 總會ニ於テハ質問スル事項ナキヲ以テ直チニ部會ヲ開カントヲ希望ス而シテ政府ノ参考書ヲ篤ト調査シ其ノ上部會ニ於テ質問シタル

●會長 退席

●鈴木副會長 總會ハ開催セザルコトナリタルヲ以テ西部會ハ九月初旬ニ開會スルコト致スベシ

以上ノ如キ質問應答アリテ午前十時五十分散會ス

人口食糧問題調査會出席表

第一回委員總會

昭和二年七月二十日

開會 午前十時。分
開會 午前十時五十分

於首相官邸

會長

內閣總理大臣 男爵 田中 義一

副會長

內務大臣 鈴木喜三郎
農林大臣 山本悌二郎

委員

內閣書記官長 鳩山 一郎
法制局長官 前田 米藏

外務政務次官○森 恪

外務次官○出淵 勝次

內務政務次官○武藤 金吉

內務次官○安部 貞吉

社會局長官○長岡隆一郎

大藏政務次官○大日 喜六

大藏次官○黑田 英雄

東京帝國大學教授○矢作 榮藏

東京帝國大學教授○林 博太郎

京都帝國大學教授○山本美越乃

東京商科大學教授○福田 徳三

農林政務次官○東 武

農林次官○阿部 壽準

商工政務次官○吉植庄一郎

商工次官○男爵○四條 隆英

遞信政務次官○秋田 清

鐵道政務次官○上野安太郎

朝鮮總督府政務總監○湯淺 各平代池田殖産局長

臺灣總督府總務長官○後藤 文夫片山殖産局長

貴族院議員○大塚勝太郎

貴族院議員○伯爵○溝口 直亮

貴族院議員○新渡戸 稻造

貴族院議員○伯爵○柳澤 保惠

貴族院議員○子爵○前田 利定

貴族院議員○男爵○藤村 義朗

貴族院議員○中川小十郎

同○藤山 雷太

衆議院議員○粕谷 義三

同○三輪市太郎

同○小山 松壽

同○鈴木富士彌

同○津崎 尚武

臨時委員

衆議院議員 ○廣瀨 爲久
同 ○井上 雅二

從三位勲二等 ○稻垣 乙丙

正四位勲二等 ○牧 朴真

從三位勲二等 ○下村 宏

同 ○官尾 舜治

從三位勲三等 男爵 ○村上 隆吉

正四位勲三等 ○月田 藤三郎

從四位勲四等 ○有賀 光豊

勲五等 ○梶原 仲治

○磯村 豊太郎

○鈴木 三郎助

内閣統計局長 ○下條 康麿

資源局長官 ○宇佐 美勝大

内務參與官 ○加藤 久米四郎

陸軍主計總監 ○三井 清一郎

司法次官 ○小原 直

東京帝國大學教授 ○鈴木 梅太郎

同 ○岩住 良治

北海道帝國大學總長 ○佐藤 昌介

農林參與官 ○砂田 重政

遞信次官 ○桑山 鐵男

鐵道次官 ○八田 嘉明

貴族院議員 ○内田 嘉吉

同 ○今井 五介

同 ○森 平兵衛

衆議院議員 ○堤 清六

勲三等 ○佐藤 友右衛門

從四位勲四等 ○永井 亨

從七位勲六等 ○有島 健助

○武智 直道

○安川 雄之助

○藤田 謙一
○氣賀 勘重
○塩澤 昌貞

人口食糧問題調査會幹事出席表

第一回委員總會

昭和二年七月二十日

開會 午前十一時十分
閉會 午後十一時五十分

於首相官邸

幹事長

内閣書記官長○鳩山 一郎

幹事

内閣書記官○長谷川 赳夫

書記

内閣 同 ○漆原 一郎
同 ○石井 善藏
同 ○松澤 辰藏

内閣拓殖局書記官	北島謙次郎	同	池之上武雄
法制局參事官	村瀬直養		
資源局書記官	松井春生		
外務書記官	石井猪太郎	外務屬	三見孝平
内務書記官	大島辰次郎	内務屬	村田福次郎
社會局部長	守屋榮夫	社會局屬	天谷健二
大藏書記官	川越文雄	大藏屬	堤光芳
農林省農務局長	松村貞一郎	農林屬	和田博雄
農林書記官	村上龍太郎	同	伊原慶治
商工書記官	吉野信次	商工屬	風早義確
逓信書記官 逓信省事務官	廣幡忠雄	逓信屬	荒川浩
鐵道書記官	前田穰	鐵道屬	山口外二

關係官出席名

緊要省官總合際

内務省社會局事務官	安積得也
同	武田寛一
内務省社會局屬	鳥海剛
同	千田壽平
同	加藤義朗
同	江草四郎
内務省社會局屬託	稻垣穎策
同	有坂左久治
農林省水產局長	長瀬貞一
農林省畜産局長	戸田保忠

内閣

農林省畜産局畜産課長	名崎芳吉
農林省耕地課長	有働良夫
農林省農産課長	間部彰
農林省水産局技師	宮田彌次郎
農林省林政課長	小平権一
農林省農務局農林事務官	岡東英雄

食糧問題調査會 第一回總會順序

(昭和二年七月二十日(水)午前十一時)

一、内閣總理大臣挨拶

二、議事規則

幹事ヲシテ朗讀セシム

三、議事規則決定ノ上ハ委員及臨時委員ノ議席ノ抽籤ヲ幹事ニ一任セラレ

度キ旨ヲ會長ヨリ諮ルコト

四、諮詢事項

幹事ヲシテ朗讀セシム

五、委員及臨時委員ノ配屬及議席番號

ヲ記載シタル表ヲ配布スベキ旨ヲ會

長ヨリ宣スルコト

六、閉會

人口食糧問題調査會第一回總會ニ於ケル内閣總理大臣挨拶

(昭和二年七月二十日)

人口食糧問題調査會ノ第一回總會ヲ開クニ當リ、各位ト相會シマシテ、所懷ノ一端ヲ申述ブル機會ヲ得マシタコトハ洵ニ欣幸トスル所デアリマス。

我帝國ノ人口ハ逐年増加ノ趨勢ニ在リマシテ、邦家隆昌ノ徵象ト致シ寔ニ喜ブベキデアリマス。人口ノ増加ハ實ニ我民族ノ精彩ヲ發揚スル所以デアアルノミナラズ又實ニ國力充實ノ根蒂ヲ成スモノデアリマス。併シナガラ我邦ハ國土素ヨリ狹小ニシテ天然ノ資源ニ匱シク而カモ産業經濟ノ發達未ダ不充分ナルヲ免カレザルガ爲、人口ノ稠度彌々密ニ、食糧ノ需要著シク増加スルニ隨ヒ、動モスレバ勞働ノ需要供給ヲ不均衡ナラシメ、延イテ國民生活ノ不安ヲ醸成スルガ如キ事情ガアリマス。仍テ帝國人口ノ増加ト之ガ食糧ノ充實トニ善處スルノ對策ヲ確立シ、社會的、經濟的ニ之ガ解決ノ方途ヲ講ズルコトハ、洵ニ刻下ノ重要問題デアリマス。政府ガ今回各方面ノ有識堪能ノ士ヲ網羅シテ、本調査會ヲ設定致シマシタノハ、全ク此ノ所信ニ基クモノデアリマス。

人口問題ノ解決策トシテハ、移植民政策ニ基ク、移植民ノ保護獎勵ハ其ノ一デアリマス。併シナガラ我邦カラ海外ニ渡航スル移植民ノ數ハ毎年僅ニ一萬五千ニ充タナイノデアリマシテ人口ノ増加ニ對シテハ、到底數フルニ足ラヌ感ガアリマス。自然内地ノ移住又ハ所謂社會政策上ノ各般施設ニ依ツテ、更ニ有效ナル方法ヲ講ズルノ必要ガアリマス。政府ガ産業立國ノ方策ヲ樹テ、内地及海外領土ニ互ツテ、統一の計畫ノ下ニ、生産組織ノ改善、重要工業ノ確立、貿易ノ振興其ノ他一般産業ノ均等ナル發達ヲ促サムトスル重要ナル理由ノ一ツハ産業方面ニ對スル人口ノ吸收ヲ圖リ以テ産業經濟的ニ人口問題ヲ解決スルノ素地ヲ作ランガ爲デアリマス。

食糧問題ハ人口問題ノ經濟的解決ニ就イテ、最モ緊切ナル關係ガアリマス。由來國民生活ノ安定、國力ノ伸展ハ此ノ問題ノ處理如何ニ依ルトコロ頗ル多大デアリマス。此ノ問題ハ單ニ農業ノミニ止マラズ榮養食糧ノ供給資源タル水産、畜産方面ニ互ツテ、農地、漁場等ノ擴張改良ニ依ル資源ノ開發利用生産方法及品種ノ改善、肥料ノ廉價供給乃至電力ノ利用等ニ依ル生産ノ増加並品質ノ改良ヲ期ス

ルト共ニ生産費ノ低減ヲ圖ルノ必要ガアリマス。又生産物ノ貯藏、運送、取引其ノ他配給ノ問題ヲ考察シ其ノ經濟的方法ト組織的體系トヲ確立シテ、需要供給ノ關係ヲ圓滿ニシ且取引上ノ贅冗ヲ除去シテ需給兩者ノ利益ヲ期シ尙生産、取引各方面ニ對スル金融ヲ圓滑ナラシムルコトヲ講究シナケレバナリマセヌ。而シテ是等各施設ノ實行ニ伴ヒ更ニ科學的ノ研究ヲ進ムベキコトハ茲ニ改メテ申上グルマデモアリマセヌ。又食糧問題ニ關シテハ、從來動モスレバ内地植民地間ノ連絡充分ナラザルニ察シマシテ全國的ニ其ノ施設ノ調和、連絡ヲ圖リ以テ内地植民地間ノ施設ヲシテ充分脈絡ノ貫通スルモノアラシムルコトモ亦必要デアリマス。

以上ノ諸事項ニ就イテ、御講究ヲ願フベキ問題ハ諮問事項トシテ提出致シマスカラ各位ノ審議調査ニ依ツテ、其ノ有效ナル解決ヲ希望スル次第デアリマス。

人口食糧問題調査會議事規則

第一條 會議ノ日時及場所ハ會長之ヲ定ム

第二條 會長ハ會議ノ議長ト爲リ議事ヲ整理ス

第三條 會長副會長共ニ事故アルトキハ會長ニ於テ指名

シタル委員臨時議長ヲ代理ス

第四條 會議ハ委員(臨時委員ヲ含ム以下同ジ)三分ノ

一以上出席スルニ非ザレバ之ヲ開クコトヲ得ズ

第五條 議席ハ豫メ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム

第六條 發言セントスル者ハ議長ノ許可ヲ受クベシ

發言ハ議席ニ於テ起立シテ之ヲ爲スベシ

第七條 議事ノ整理上必要アルトキハ議長ハ發言ヲ止メ

又ハ議事ヲ中止スルコトヲ得

第八條 關係各廳職員其ノ他會長ニ於テ適當ト認メタル

者ハ會議ニ出席シ議案ノ説明ヲ爲シ又ハ意見ヲ陳述ス

ルコトヲ得

第九條 修正ノ動議ヲ提出セントスル者ハ案ヲ具シ之ヲ

議長ニ差出スベシ但シ簡單ナルモノハ口頭ヲ以テ陳述

スルコトヲ得

第十條 動議ハ賛成者アルニ非ザレバ議題ト爲スコトヲ

得ズ

第十一條 議事ハ出席委員ノ過半数ヲ以テ之ヲ決ス可否

同数ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

第十二條 採決ハ起立ニ依ル但シ議決ニ依リ記名投票又

ハ無記名投票ヲ用フルコトヲ得

第十三條 委員建議案ヲ發議セントスルトキハ案ヲ具シ

理由ヲ附シ委員十人以上ノ賛成者ト共ニ連署シテ之ヲ

議長ニ差出スベシ

第十四條 調査會ニ人口部及食糧部ヲ置ク

人口部ハ人口問題ニ関スル事項ヲ掌ル

食糧部ハ食糧問題ニ関スル事項ヲ掌ル

委員ノ所屬部ハ會長之ヲ指定ス

第十五條 部ニ部長ヲ置キ人口部ノ部長ハ内務大臣タル

副會長ヲ以テ食糧部ノ部長ハ農林大臣タル副會長ヲ以

テ之ニ充ツ

部長ハ審査ノ經過及結果ヲ本會ニ報告スベシ

部會ニハ本會ニ関スル規定ヲ準用ス

第十六條 部長ハ調査ノ爲必要ト認メタルトキハ特別委員ヲ設クルコトヲ得

特別委員ハ當該部ニ属スル委員中ヨリ部長之ヲ指名ス

第十七條 特別委員ハ其ノ互選ヲ以テ委員長ヲ置ク

委員長ハ審査ノ經過及結果ヲ部會ニ報告スベシ

特別委員會ニハ本會ニ関スル規定ヲ準用ス

第十八條 部長ハ必要ト認メタルトキハ他ノ部ノ部長ト

協議ノ上兩部ノ特別委員ノ聯合會ヲ設クルコトヲ得

第十九條 聯合會ニ属スル特別委員ハ其ノ互選ヲ以テ聯

合會委員長ヲ置ク

聯合會委員長ハ聯合會ノ審査ノ經過及結果ヲ兩部會ニ

報告スベシ

聯合會ニハ本會ニ關スル規定ヲ準用ス

第二十條 議事録ハ幹事之ヲ作成スベシ

第二十一條 本則ニ規定ナキ事項ハ會長之ヲ決ス

諮詢第一號

人口問題ニ關スル對策殊ニ我國ノ現狀ニ鑑ミ急速實施ヲ要スト認ムル方策如何

說明

我國ノ人口ハ累年増加シ、其ノ密度ハ益々高カラントスル趨勢ニ在リ。凡ソ人口ノ増加ハ國力ノ増進ニ資シ國家隆興ノ基調ヲ爲ス所以ナリト雖モ、國土狹少ニシテ天然資源ニ匱シク、而モ産業經濟ノ發達未ダ不充分ナル我國ニ在リテハ、人口稠密ノ度ヲ加フルニ隨ヒ勞働ノ需給均衡ヲ失シ國民生活ノ不安ヲ招徠スルノ虞アリ。斯クノ如キ狀勢ニ鑑ミ我國人口ノ増加ニ對スル根本方策ヲ樹立スルコトハ刻下喫緊ノ要務ナリト認ム。仍テ茲ニ本案ヲ提出シ之ニ對スル意見ヲ求ム。

諮詢第二號

食糧問題ニ關スル對策、殊ニ我國ノ現狀ニ鑑ミ急速實施ヲ要スト認ムル方策如何

說明

食糧問題ハ人口問題ニ對シテ特ニ緊切ナル關係ヲ有シ、之ガ解決ハ人口ノ増加ニ伴ヒ益々緊要ノ度ヲ加ヘツツアリ。而シテ食糧問題ノ解決ハ啻ニ食糧ノ需給ヲ圓滑ナラシメ、國民生活ノ安定ヲ期スル所以ナルノミナラズ、又我國資源ヲ開發シ以テ國富ヲ増進スル所以ナルヲ以テ、我國現下ノ狀態ニ應ジ食糧ノ生産、配給等ノ各方面ニ互リ新ナル考察ヲ加ヘ、以テ全國的ニ食糧問題ニ對スル方策ヲ樹立スルコトハ刻下喫緊ノ要務ナリト認ム。依テ茲ニ本案ヲ提出シ之ニ對スル意見ヲ求ム。

人口食糧問題調查會職員

會長

副會長

內閣總理大臣 男爵 田中義一

內務大臣 鈴木喜三郎
農林大臣 山本悌二郎

人口部

委員

內閣書記官長 鳩山一郎
法制局長官 前田米藏
外務政務次官 森 恪

外務次官 出淵勝次
 內務政務次官 武藤金吉
 內務次官 杉山四五郎
 社會局長官 長岡隆一郎
 大藏次官 黑田英雄
 東京帝國大學教授 山本美越乃
 東京商科大学教授 福田德三
 商工次官 男爵 四條隆英
 逓信政務次官 秋田清
 鐵道政務次官 上桒安太郎
 貴族院議員 伯爵 溝口直亮
 貴族院議員 新渡戶稻造
 貴族院議員 伯爵 柳澤保惠

臨時委員

貴族院議員 男爵 藤村義朗
 衆議院議員 粕谷義三
 同 鈴木富士彌
 同 津崎尚武
 同 井上雅二
 從三位勳二等 下村宏
 同 宮尾舜治
 同 磯村豐太郎
 內閣統計局長 下條康磨
 資源局長官 宇佐美勝夫
 內務參與官 加藤久米四郎
 司法次官 小原直
 貴族院議員 內田嘉吉

食糧部
委員

貴族院議員 今井 五介
同 森 平兵衛
從四位勲四等 永井 亨

藤田 謙一
氣賀 勘重
塩澤 昌貞

内閣書記官長 鳩山 一郎

法制局長官 前田 米藏

大藏政務次官 大口 喜六

東京帝國大學教授 矢作 榮藏

東京帝國大學教授 伯爵 林 博太郎

農林政務次官 東 武

農林次官 阿部 壽準

商工政務次官 吉植 庄一郎

朝鮮總督府政務總監 湯淺 倉平

臺灣總督府總務長官 後藤 文夫

貴族院議員 犬塚 勝太郎

貴族院議員 子爵 前田 利定

貴族院議員 中川 小十郎

同 藤山 雷太

衆議院議員 三輪 市太郎

同 小山 松壽

同 廣瀬 為久

臨時委員

從三位勲二等	稻垣乙丙
正四位勲二等	牧朴真
從三位勲三等	男爵村上隆吉
正四位勲三等	月田藤三郎
從四位勲四等	有賀光豊
勲五等	梶原仲治
	鈴木三郎助
陸軍主計總監	三井清一郎
東京帝國大學教授	鈴木梅太郎
同	岩住良治
北海道帝國大學總長	佐藤昌久
農林參與官	砂田重政

幹事長

幹事

遞信次官	桑山鐵男
鐵道次官	八田嘉明
衆議院議員	堤清六
勲三等	佐藤友右衛門
從七位勲六等	有島健助
	武智直道
	安川雄之助

内閣書記官長 鳩山 一郎

内閣書記官 長谷川 赳夫

書記

内閣拓殖局書記官 北島謙次郎
法制局参事官 村瀬直養
資源局書記官 松井春生
外務書記官 石射猪太郎
内務書記官 大島辰次郎
社會局部長 守屋榮夫
大藏書記官 川越丈雄
農林省農務局長 松村真一郎
農林書記官 村上龍太郎
商工書記官 吉野信次
鐵道書記官 前田 穰

内閣属 漆原一郎
同 石井善藏
同 松澤辰藏
同 池之上武雄
外務属 二見孝平
内務属 村田福次郎
社會局属 天谷健二
大藏属 堤光芳
農林属 和田博雄
同 伊原慶治
商工属 風早義確
逓信属 荒川浩

第二回總會議事概要

一日時 昭和三年十月十五日午前十一時三十分開會

場所 於首相官邸

出席者 別紙ノ通

議事概要

田中會長議長席ニ著キ開會ヲ宣ス

鈴木大臣部長ハ部會ノ経過ヲ報告シ質問ヲ受ハ特別委員長

其ノ他起草委員ヨリ應答スベシト述ブ

一村上委員 海外移住民ハ農業移民ヲ主トシテ指シテアルト思フカ漁

業移民ハ含レテ居ラヌカ

一 藤村委員長 下村委員ヨリ報告ヲ領フ

一 下村委員 大部分ハ農民ナルモ漁民デモアテハマル。特ニ農民大

ケトハセヌ

一 田中會長
二 鈴木大臣
三 大隈首相
四 大藏大臣
五 陸軍大臣
六 海軍大臣
七 農林大臣
八 司法大臣
九 文部大臣
十 逓信大臣
十一 労働大臣
十二 貴族院議長
十三 衆議院議長
十四 各議員

金水

金水

田中會長
鈴木大臣
大隈首相
大藏大臣
陸軍大臣
海軍大臣
農林大臣
司法大臣
文部大臣
逓信大臣
労働大臣
貴族院議長
衆議院議長
各議員

一 田中會長
二 鈴木大臣
三 大隈首相
四 大藏大臣
五 陸軍大臣
六 海軍大臣
七 農林大臣
八 司法大臣
九 文部大臣
十 逓信大臣
十一 労働大臣
十二 貴族院議長
十三 衆議院議長
十四 各議員

書

書

一村上委員

水産ノ方ヲモ参考セテ貫ヒ度イ

一村下委員

夫レハ固ヨリ差支ナイ

一矢作委員

ハニ付朝鮮人ノ海外ニ於ケル生活ノ安定ヲ考慮スルノ力

一 下村委員

移住先ノコトハ(一)(七)ニ含メテ居ルモノト考ヘテ良イ

一 藤村委員長

下村委員ノ説明ヲ補足ス(ハ)ニ於テ重キヲ置イテ其

ノハ第三段デアツテ前段ノモノハ外ニ目下審議中ナリ

一 山崎委員

又ハ極メテ抽象的ノ文字デアルガ部會又ハ特別

委員會ニ於ケル具體的事項ガアルニ參考迄ニ承知シタイ

一 藤村委員

具體的ノ各案ヲ發見シ得タリ尚塩沢委員ヨリ

説明ヲ願フ

一 塩澤委員

説明ス(特別委員會ニ於ケル模様ヲ)結局具體

的事例ナシ

一 新渡戸委員

拓殖博物館ニ付テ一言希望ヲ述ビ退散

業專門學校長會議ニ於テ海事博物館設置ノ必要ヲ

述べテナル又農林省亦參考案(食糧部)ハ海事陳列館ノ設

立ヲ説イテナルガ能ク連絡ヲ取テ博物館設置付テハ重複

スルヤウナ事ナキヤウ行ニ希望ス

一 鈴木部長

御説ノ通リ諒承

一 佐伯委員

(一)ハ海外移住國丈カ(三)(四)ハ衛生的施設カ

入ツテナキ

一 下村委員

主トシテ海外移住國ダケトモ尚出來ル丈ケ他ニ及ボス

考ヘナリ又衛生的施設ハ社會的施設ニ入レザル

一 小山委員

和工藝的ト例示的限定的ニ指シテハ何カ特別

意味ガアルカ

一 塩澤委員

説明ス

手工藝的ノ文字削除ノ動議ヲ出シ賛成者アリタルニ付議題トナ
リ採決ノ結果少數ノ為不決トナル

田中會長 採決ス

全員起立 原案可決

次デ山本食糧部長ハ食糧部會ノ経過ヲ報告ス 報告後直
疑應答ニ入ル

一 福田委員 農産ノ方ニ於テ 一 一部極端志組合トハ如何其

ノ理由ニ 農村ノ階級闘争ニ 三 作制度ヲ如何ニ改善

スベキカ 四 米價ヲ高クスルノガ根本方針カ或ハ引下セルノガ

根本方針カ 水産ノ方ニ關シ外務當局ノ説明ヲ願ヒ度シ

一 井委員長 大ニ應答ス

一 山本委員 耕地面積擴張ニ付考ヘサルハ何故カ 福田委員ノ頃

同サレタ様ヲ文字ハ避ケタ方カ良イ

一 永井委員 議事進行ノ為速ニ本文決議ノ願ヒ度イ

一 永井(通)委員 何故玄米食ヲ入レメカ 土砂ヲ付ケタ白米ノ

販賣ヲ禁止スルノ法律アルカ

一 林委員長 答弁ス

右ノ外尚多數ノ質問意見 希望等出ガタルモ 會長ハ採決ノ
結果原案決セシメタリ

內閣

[illegible]

(1) 内外移住方策ニ關スル答申

(2) 勞働ノ需給調節ニ關スル方策答申

部員閉會ノ宣告

新事朗讀

新市訓讀

昭和二年十二月十四日

人口食糧問題調査會人口部長 鈴木喜三郎

人口食糧問題調査會會長 男爵田中義一殿

人口部會ハ諮詢第一號人口問題ニ関スル對策中内外移住方策及勞働ノ需給調節ニ関スル方策ニ付急速實施ヲ要スト認ムルモノニ關シ夫々調査審議ヲ遂ケ別紙答申ヲ決議致候條此致又報告候

三 國內移住適地ヲ選定シ、主トシテ團體的移住ヲ圖リ、移住ニ關スル費用ノ輕減、交通運輸ノ整備、各種產業ノ開發、移住組合ノ設立其ノ他移住者ヲシテ移住地ニ定著セシムル爲、必要ナル經濟的社會的諸施設ニ對スル補助助成ノ途ヲ講ズルコト。

四 國外移住適地竝ニ移住者ニ適スル事業ヲ調査シ海外移住組合、移民收容所及移植民學校等ノ整備増設、移植民後援團體ノ普及發達、移民保護官ノ新設、移植民保險ノ施設、移住旅費ノ補助、移住者ノ社會的國家的優遇等ノ方途ヲ講ジ、以テ移住者ノ保護獎勵、移住者ノ素質ノ向上ヲ圖ルト共ニ、移住者ヲシテ移住地ニ定著セシムル爲必要ナル經濟的社會的諸施設ニ對スル補助助成ノ途ヲ講ズルコト。

五 海外移住組合ノ堅實ナル發達ヲ期スルト共ニ、會社企業ニ依ル移住地開拓ノ場合ニ於テモ、移住組合ニ準ズル施設ヲ講ゼシメ、之ニ對シ相當助成ヲ爲スコト。

六 移住者ニ對スル金融機關ノ缺陷ヲ充實スベキ施設ヲ爲スコト。

七 内外移植民ニ關スル行政事務ヲ社會政策的見地ヨリ連絡統一スベキ方策ヲ確立スルコト。

八 朝鮮住民ノ内外移住ニ關シテハ特ニ慎重ナル考慮ヲ拂ヒ、朝鮮ニ於ケル產業ノ發達、資源ノ開發竝ニ朝鮮住民ノ生活ノ安定ニ努ムル等適當ナル方策ヲ講ズルコト。

人口部

答 申

我國ノ現状ニ鑑ミ、人口問題對策中勞働ノ需給調節ニ關スル方策ニ付、急速實施ヲ要スト認ムルモノ左ノ通答申ス

勞働ノ需給調節ニ關スル方策

勞働需給ノ調節ハ人口問題解決ノ根本方策ニ非ズト雖モ、人口ノ過剩ハ失業ノ發生ヲ招クノ事實ニ鑑ミ、其ノ防止救済ニ努ムルハ當面ノ一對策タルヲ失ハザルノミナラズ、現代產業組織ノ缺陷ヲ補正スルニ與ツテ緊要ナリト認ム。其ノ方策ノ大要左ノ如シ。

一 職業紹介機關ノ急速ナル普及充實ヲ圖リ、國營主義ノ實現ヲ期スルト共ニ職業紹介法施行ノ地域ヲ擴張スルコト。

二 國家及地方公共團體ニ公共失業基金ヲ設置シ、失業防止及救済事業ニ必要ナル經費又ハ補助ニ充當スルコト。

三 官公營建築土木其ノ他ノ事業ノ起興及按排ニ依リ、失業殊ニ季節的失業ノ緩和救済ヲ期スルコト。

失業ノ救済ヲ目的トスル公營事業ニ對シ、國家ハ必要ニ應ジ國庫ノ補助低利資金ノ融通其ノ他助成ノ方途ヲ講ズルコト。

四 失業共済施設ノ普及發達ヲ期シ、之ガ適當ナル監督及助成ノ方途ヲ講ズルト共ニ一般共済施設ニ關スル法制ヲ定ムルコト。

五 解雇手當支給ノ慣行竝ニ失業豫備積立金ノ設定ヲ獎勵シ、之ガ普及ニ努ムルト共ニ適當ナル監督及助成ノ方途ヲ講ズルコト。

六 勞働能率ノ増進及失業ノ防止ヲ主タル目的トスル委員會ヲ企業内ニ設置スルコトヲ獎勵シ、解雇ニ伴フ勞働爭議ノ發生ヲ豫防スルニ努ムルコト。

七 都市及農村ニ於ケル手工藝的副業ノ斡旋及指導ニ關シ、適切ナル施設ヲ行フコト。

八 卒業期ノ小學兒童ニ對スル職業指導竝ニ失業者ニ對スル職業輔導ニ必要ナル施設ヲ行フコト。

九 智的勞働者ニ對スル應急的失業緩和ノ方途ヲ講ズルト共ニ現行高等教育制度及方針ノ刷新ヲ

期スルコト。

十 失業問題調査會又ハ失業對策委員會ヲ常置シ、失業ノ防止及救済ニ關スル方策ノ確立ニ遺憾ナカラシムルコト。

昭和二年十二月十四日

人口食糧問題調査會食糧部長 山本 悌二郎

人口食糧問題調査會會長 男爵 田中 義一 啟

食糧部會ハ諮詢第二號食糧問題ニ関スル對策中現下ノ事情ニ鑑ミ
特ニ緊急實施ヲ要スト認ムルモノニ関シ調査審議ヲ遂ゲ別紙農產
及水產關係事項ニ對スル答申ヲ決議致候條此致及報告候

必不武閣部事取ニ儘スル答申ニ先難後易新出及時計
採ニ習余實然ヲ要スイ臨ムルチノニ関シ調査審議ニ進ミ得ル
食料協會ハ臨時第二緊急問題ニ関スル提議中取テ、事計ニ
入

人口食料問題調査會委員 野田 中義一 殿

人口食料問題調査會食料委員 山本 耕二 殿
昭和二年十二月十四日

食糧部(農産)

第一回答申

食糧問題ニ關スル對策中要急施設多々存スベシト雖モ、我國現下ノ事情ニ鑑ミテ、他ノ施設ニ先チ
特ニ急速實施ヲ要スト認ムルモノ左ノ通り答申ス。

甲 農産食糧品ノ生産増進ニ關シ急速實施ヲ要スル方策

第一 自作農ノ創定維持ヲ計リ農民ノ生活ヲ安固ナラシムルコト。

説明

輓近小作爭議ハ全國ニ瀰漫頻發スルノミナラズ、其ノ性質深刻ノ度ヲ加ヘツツアリ。而シテ地主
及小作人各團結シ生産物ノ分配ヲ爭フニ止マラズ、一部極端ナル組合ノ指導原理トスルモノノ
如キハ、現在ノ社會經濟組織ト相容レザルモノアリ。斯クノ如キ狀態ニ進ミツツアル現在ニ於テ
ハ適切ニシテ有力ナル政策ヲ實行スルニ非ザレバ、我國ノ社會組織ノ根底ニ動搖ヲ來スノ惧アリ。
今日ノ狀態ヲ以テスレバ、小作人ハ生産ノ繼續ニ不安ヲ感シ地主モ亦其ノ地位ニ不安ヲ感シ

ツツアルヲ以テ、根本的ニ農業ヲ改良シ生産増殖ノ計畫ヲ樹ツルニ遲疑スルノ有様ナリ。故ニ此ノ際政府ハ有力ナル自作農創設政策ヲ採リ、土地ヲ耕作スル者ニ土地所有權ヲ獲得セシムルト共ニ、既ニ自作農タル者ニシテ抵當債務等ニ因リ耕地ノ所有權ヲ喪失スルコトアルヲ防止シ以テ土地所有權制度ノ長所ヲ發揮セシムルコトトセバ、農村ニ於ケル階級闘争ヲ除キ再ビ農村ノ平和ヲ回復シ、農民ヲシテ生活ノ安全ヲ得セシムルコトヲ得ルハ各國ノ歴史ニ徴シ明ナリト謂フベシ。故ニ農産物ノ生産増殖ノ計畫ヲ樹テントセバ、其ノ前提トシテ先ヅ有力ナル自作農創設維持政策ヲ實行スルハ現下ノ生産増殖ノ政策トシテ急務中ノ急務ナリト認ム。

第二 米穀法ノ運用ヲ徹底的ナラシメ其ノ效果ヲ完ウセシムルコト。

説明

我國民主要食糧品ノ大宗タル米穀ノ生産ハ、適當ノ施設ヲ爲スニ於テハ尙ホ供給増加ノ餘地尠カラザルノミナラズ、近時植民地ニ於ケル米穀ノ生産力ハ急速ナル進展ヲ見タリト雖モ、米穀ハ其ノ需要供給ノ各方面ニ於テ弾力性ニ缺クル事大ナルモノアルニ因リ、其ノ價格ノ構成竝ニ變動ハ一般物價ト軌ヲ一ニセザルノミナラズ、轉變常ナク其ノ振幅亦極メテ大ナルノ結果、我國主要産業タル農業及社會一般ニ及ボス影響甚大ナルモノアリ。而シテ現在ノ經濟組織ノ下ニ在リ

テハ、生産物ノ價格ヲ無視シテ生産方策ヲ講ズル能ハザルハ敢テ説明ヲ加フルノ要ナキ所ニシテ、現ニ米穀法竝ニ米穀需給調節特別會計法制定セラレ、借入金二億圓ヲ限度トシテ米穀ノ買入、賣渡等ヲ行ヒ以テ米穀ノ需給及價格ノ異常ナル變動ヲ調節シ國民經濟ノ安定ヲ期セリト雖モ、近時植民地米ノ生産増加ハ内地移入額ノ激増トナリ、之ニ因ル内地米價ノ壓迫漸ク甚シク内地米、植民地米間ノ關係既往ノ如ク簡單ナラザルノミナラズ、一般經濟事情ノ推移ト共ニ米穀法ノ效果ヲ完ウセシムルニハ、同法ノ施行ヲ内地ニ限局スルハ適當ナラザルノミナラズ、米穀法制定當時豫想セル資金ヲ以テシテハ甚シク不充分ナルヲ感ズルニ至レリ。仍テ此ノ際同法ノ施行ヲ植民地ニ及ボスト共ニ、米穀需給調節特別會計法ニ依ル借入金ノ限度ヲ少クトモ二倍ニ増大シ以テ米穀法本來ノ使命ヲ完ウセシメ、適當ナル米穀ノ需給及價格ノ調節ヲ行フハ、米穀生産増殖上喫緊ノ事ナリト認ム。

第三 適當ナル肥料政策ヲ行ヒ特ニ肥料ノ供給ヲ豊富ニシ且之ガ價格ヲ低廉ナラシムルコト。

説明

我國ニ於ケル農産物ノ生産費中肥料代金ハ、極メテ重要ナル部分ヲ占メ其ノ割合ハ勞賃ニ匹敵スルノ有様ナリ。故ニ肥料ノ供給ヲ豊富ナラシメ且其ノ價格ヲ低廉ナラシムルハ、啻ニ生産増殖

ノ方面ニ裨益スル處尠カラザルノミナラズ農家經濟ノ充實ニ資スル處蓋シ鮮少ナラザルベク、生産費ノ低下ハ延イテ生産物ノ價格ヲ低廉ナラシメ消費者ヲモリスルニ至ルベク、其ノ社會的ニ影響スル處甚大ナルモノアルニ鑑ミ此ノ際時宜ニ適セル肥料政策ヲ實行スルハ食糧問題ノ解決ニ資スル處尠カラザルモノト認ム。

乙 農産物ノ利用増進ニ關スル方策

第一 米糠ノ利用ヲ増進シ竝ニ土砂ヲ附著セシムル白米ノ販賣ヲ禁止スルコト。

說明

米糠ハ其ノ營養物質ノ含有量ニ於テ豐富ナルノミナラズ之ヲ適當ニ加工センカ國民ノ嗜好ニ適スル食味佳良ナル食品ヲ製シ得ベキニ拘ラズ、從來米ノ搗精ニ混砂スルノ結果之ヲ廢棄部トシテ取扱フノミナラズ白米ノ販賣ニハ搗精後更ニ化粧砂ヲ附スルノ惡習アリ。尙ホ食用前白米ハ之ヲ淘洗セザルベカラザルノ結果莫大ナル減額ヲ生ズルノ事實アルニ鑑ミルモ、一方無砂搗精ヲ獎勵スルト共ニ土砂ノ附著セル白米ノ販賣ヲ禁止スルハ、啻ニ國民保健上ノミナラズ食糧問題ノ解決ニ資スル處尠カラザルモノト認ム。

第二 食糧品ノ利用、貯藏、配給ノ改善ヲ研究スル機關ヲ設備スルコト。

說明

啻ニ農産食糧品ノミナラズ食糧品一般ノ利用ヲ増進セシメ貯藏、配給ノ改善ヲ計ル爲、國立研究機關ヲ設置スルト共ニ民間ノ研究機關ヲ獎勵補助スルハ喫緊ノコトナリト認ム。

丙 耕地ノ保護ニ關スル方策

水力利用、鑛業等ノ爲ニ被ル耕地ノ被害ノ防止及復舊ニ付適當ナル方法ヲ講ズルコト。

說明

從來政府ガ發電水力ノ利用ヲ許可シ又ハ鑛物ノ採取製鍊ヲ許可スルニ當リテ、農業上ノ利益ヲ顧慮スルコト充分ナラザル爲ニ、屢々耕地又ハ森林ヲ荒廢セシメ若クハ著シク農林業用地ノ收穫ノ減少ヲ來シ農民生活ヲ不安ニ陷ラシムルコトアルハ、農業生産ノ維持増進ヲ圖ルニ甚シキ障害ナリト謂ハザルベカラズ。政府ハ之等弊害ヲ除去スルニ必要ナル制度ノ改正ヲ行フト共ニ既ニ著シキ收穫ノ減少若クハ荒廢ヲ生ジタルモノニ付テハ速ニ適當ナル善後策ヲ講ズルハ喫緊ノコトナリト認ム。

第一回答申

食糧品ノ供給特ニ生産増進方策ニ最も重要ナル關係ヲ有スル日露漁業協約ニ付テハ、改訂手續進行中ノ關係上緊急ヲ要スルニ因リ特ニ左記ノ事項ヲ答申ス。

記

- 一 改訂日露漁業協約ニ於テ露國國營漁區ニ關シテハ、帝國既得ノ權利ヲ擁護セラレンコトヲ望ム。

説明

- 露國國營漁區ハ大正十四年北京條約「第三條 千九百七年ノ漁業協約ノ締結以後一般事態ニ付發生シタルコトアルベキ變化」ニ因リ之ヲ認ムルモノトセバ、是單ニ露國國內事情ノ變化ニ因リ帝國ノ既得權ニ惡影響ヲ及ボスモノナルヲ以テ之ヲ擁護セラレンコトヲ望ム。
- 二 露國河川漁業ニ關シ帝國ノ既得權擁護上適當ノ措置ヲ執ヲレンコトヲ望ム。

說明

帝國臣民ノ露領ニ於ケル漁區漁業ノ大宗タル鮭鱒魚族ハ、其ノ習性上河川ニ洩リテ産卵スルヲ以テ、河川ニ於ケル資本的漁業ニ對シ蕃殖保護上適當ノ措置ヲ執ルニ非ザレバ、河川ニ於ケル濫獲ノ結果ハ海岸ニ群來スル鮭鱒魚族ガ漸次衰滅スベキハ當然ニシテ、帝國ノ漁業權ハ實質上自然ニ消滅スベシ。殊ニ傳フル所ニ依レバ露國ハ漁獲高制限、製造制限及養殖五分稅等蕃殖保護ヲ理由トシテ帝國臣民ニ幾多ノ負擔ヲ求メナガラ河川漁獲ニ對シ蕃殖保護上ノ施設ヲ爲サザルハ不當ナリト認ム。

三 漁業協約改訂期間ハ成ルベク長期ニ之ヲ定メラレンコトヲ望ム。

說明

帝國ノ漁業權ハ其ノ性質上永久ナルハ當然ナリ。唯從來ハ協約改定期間ヲ十二年ト定メタルヲ以テ漁區租借期間モ亦短期ナラザルヲ得ズ。鮭鱒魚族ハ五六年ヲ以テ週期トスル習性ナルヲ以テ、少クモ週期二回以上ヲ改訂期間トシ、漁區租借期間モ成ルベク長期トナシ、以テ毎年漁獲ノ平衡ヲ得テ其ノ經營ヲ技術上合理的ナラシムルコトヲ要ス。

四 露領漁船漁業ニ關シ其ノ實行手續ヲ解決セラレンコトヲ望ム。

說明

露國極東領海ニ於ケル漁船ニ依ル漁業ヲ爲スノ權利ハ、千島樺太交換條約及日露講和條約ニ依リテ獲得シタルモノニシテ、未ダ帝國臣民ノ之ニ從事スルモノナシト雖モ、其ノ原因ハ露國政府ガ免許手續ヲ規定セザル等露國ノ責任ニ因ルモノナレバ、此ノ機會ニ於テ出漁手續ノ簡易、各種負擔ノ減免、漁船、漁獲ノ不干渉等帝國臣民ノ出漁實行ニ關シ適當ニ解決スルコトハ水産食糧問題及人口問題ノ解決上重要ナリト認ム。

五 日露兩國人以外ノ參加拒否ヲ明ニセラレンコトヲ望ム。

說明

極東露領ニ於ケル漁業權ハ千島樺太交換條約及日露講和條約ノ結果ナレバ最惠國條款ヲ有スル第三國ト雖モ之ニ均霑スベキモノニアラズ、仍テ協約改訂ニ際シ其ノ主旨ヲ明ニセラレンコトヲ望ム。

外務政務次官○森 恪

外務次官○出淵 勝次

內務政務次官○武藤 金吉

內務次官○中島 健一郎

社會局長官○長岡隆一郎

大藏政務次官○大口 喜六

大藏次官○黑田 英雄

東京帝國大學教授○矢作 榮藏

東京帝國大學教授○林 博太郎

京都帝國大學教授○山本美越乃

東京商科大學教授○福田 德三

農林政務次官○東 武

農林次官○阿部 壽準

商工政務次官○吉植庄一郎

商工次官男爵○四條 隆美

遞信政務次官○秋田 清

鐵道政務次官○上笠安太郎

朝鮮總督府政務總監○湯淺 倉平

臺灣總督府總務長官○後藤 文夫

貴族院議員○犬塚勝太郎

貴族院議員伯爵○溝口 直亮

貴族院議員○新渡戸 稻造

貴族院議員伯爵○柳澤 保惠

貴族院議員子爵○前田 利定

貴族院議員男爵○藤村 義朗

貴族院議員○中川小十郎

同 久藤山 雷太

衆議院議員○粕谷 義三

同 三輪市太郎

同 小山 松壽

同 鈴木富士彌

同 津崎 尚武

臨時委員

衆議院議員久廣瀨 爲久

同 ○井上 雅二

從三位勲二等○稻垣 乙丙

正四位勲二等○牧 朴真

從三位勲二等○下村 宏

同 欠官尾 舜治

從三位勲三等男爵○村上 隆吉

正四位勲三等○月田藤三郎

從四位勲四等○有賀 光豊

東事 梶原 仲治

磯村豊太郎

貴族院議員 ○鈴木三郎助

内閣統計局長 欠下條 康一

資源局長官 ○宇佐美勝夫

内務參與官 ○加藤久米四郎

陸軍主計總監 ○三井清一郎

司法次官 ○小原 直

東京帝國大學教授 ○鈴木梅太郎

同 ○岩住 良治

北海道帝國大學總長 ○佐藤 昌介

農林參與官 ○砂田 重政

遞信次官 ○桑山 鐵男

鐵道次官 ○八田 嘉明

貴族院議員 欠内田 嘉吉

同 ○今井 五介

同 ○森 平兵衛

衆議院議員 欠堤 清六

勲三等 ○佐藤友右衛門

從四位勲四等 ○永井 亨

從七位勲六等 ○有島 健助

欠武智 直道

○安川雄之助

○藤田 謙一
 久氣賀 勘重
 ○塩澤 昌貞
 文部政務次官 ○山崎 達之輔
 從三位勳一等 久田 付七太
 學務研究所長 ○佐伯 矩
 東京帝國大學教授 ○永井 潜

人口食糧問題調查會幹事出席表

第二回總會

於首相官邸

昭和二年十二月十五日(木)

開會 午前 十時十分

閉會 午後 二時十分

幹事長
 內閣書記官長 久嶋 山一郎

幹事

內閣書記官 ○横溝 光暉

內閣拓殖局書記官 ○北島 謙次郎
 內閣統計局書記官 久高 田太一
 法制局參事官 ○村瀬 直養
 資源局書記官 ○植村 甲午郎

書記
 內閣屬
 同 同 同
 ○漆原 一郎
 ○石井 善藏
 ○松澤 辰藏
 ○池田 武雄
 ○依光 重親

法制局屬 久森 喜之助

農林技師 岡出幸生
同 官田坊澤郎
社會名流 江華田朗
社會名流 船垣親策
同 有坂
同 富永

日
人吟池
食吟池
日
日
日
日

外務書記官	石射猪太郎	外務屬	久二見孝平
内務書記官	安井英二	内務屬	村田福次郎
同	久人島辰次郎		
社會局部長	守屋榮夫	社會局屬	久天谷健二
社會局書記官	川西實三	同	久島海剛
大藏書記官	久川越文雄	大藏屬	久堤光芳
農林省農務局長	松村貞一郎	農林屬	久和田博雄
農林省水產局長	長瀬貞一		
農林省畜產局長	戸田保忠		
農林書記官	村上龍太郎	同	久伊原慶治
商工書記官	吉野信次	商屬	久風早義確
逓信書記官	長川豊樹	逓信屬	久荒川浩
鐵道書記官	前田穰	鐵道屬	久山口外二

第三回總會議事概要

一日時 昭和三年九月二十七日(木)午後一時三十分開會

場所
於首相官邸

出席者
別紙／＼

議事概要

山本副會長 本日田中首相参内ニ付代々司會スル月ヲ述ベ敬長

席三著、開會ノ宣入。次、人口部長及食糧部長ヨリ、報告人幹事

長ヨリセシムトトレ先ヅ昨
二十日人々都長ヲ會
長定答申アリ

地以外諸地方ニ於テ人口對策ヲ議題ニ付人口部長ノ報告ヲ求ム

旭山人新長代理 人口部会ノ経過ヲ報告ス

蠡澤委員八人、却特別委員會ノ経過ヲ述

賃問
念

一矢作養負 連記中ノ上偵問致レ度トテ 前文中此等ノ地方ニ

又事實不可能ニ屬ス。ニ付朝鮮總督府迄特別委員長ノ答弁示ム

塩務委員長ハ委員長ノ大務ヲ答弁シ政府側ハ答弁セム

一、三井委員 連記中並ニシテ 食糧部ニ於テ内地自給自足主義ノ下

ニ審議中ナル人部ハ海外ニ迄モ及ボテモ得テズ。差支ナカ

一、山本議長 答弁ス

一、藤山委員 連記閣下第五項中「方途ヲ講ジ」ニ付テハ何カ具

体的ノ方策(地方)ニ付特別委員長會ヲ設ケテゾカ

塩務委員 福田委員答弁

一、藤山委員 海外農産者ノ爲メ何カ参考トスヘキ具体案ヲ伺フ

置テ度

福田委員答弁

一、佐藤委員 内地ト云フ語ノ意義如何。樺太ハ内地以外ニ取

扱フナカ

塩務委員答弁

一、津崎委員 預内ヲ打テテ討論採決ノ動議ヲ提出ス

一、藤田委員 第二項ハ農業金融機關ノ一限ラズ廣ク商業工業ノ金融機關ノ充實セシメ度

一、山本委員 第二項中「農業ヲ削リ」廣ク金融機關ニ改メシ度

山本議長ハ山本委員ノ修正動議ノ賛否ヲ起シ問ヒタルニテ多數ヲ得タルニ付採決ニ移リ多數ヲ以テ原案ヲ可決ス

鹽務委員食糧部長ヲ會長宛答申タル「海洋漁業」内水面及畜産ニ關スル件ヲ議題トシ先ヲ村上幹事案ヲ附議ノ後鳩山部長食糧部會ノ状況ヲ報告シ前日委員長ノ報告ヲ依テ預疑ニ移ラセテ特別ノ質問ヲ且モ見エナカレシヲ以テ直ニ採決スル所全會一致ヲ以テ可決

答 申

我國人口問題ニ關スル方策中内地以外ノ諸地方ニ於テ特ニ實施ヲ要スト認ムルモノ左ノ通り答申ス。

内地以外諸地方ニ於ケル人口對策

内地以外ノ諸地方、就中、朝鮮臺灣ノ人口問題ニ對スル根本方策ニ付テハ更ニ慎重ナル考慮ヲ要スルモノアリ。單ニ内地人口問題解決ノ上ヨリスルモ之ヲ等閑ニ付スルヲ許サザルノミナラズ、此等地方ニ多數ノ内地人ヲ移植スルガ如キハ徒ニ其ノ住民ニ不安ノ念ヲ懷カシムルニ過ギズ、又事實不可能ニ屬ス。更ニ、此等ノ土地ト密接ナル關係ヲ有スル滿蒙、西比利亞竝ニ南洋地方ニ付人口對策ヲ講ズル所以ノモノハ、直接内地人口増加ノ緩和ヲ計ルニ非ズシテ、當該地方ニ於ケル土地ノ開拓、資源ノ開發、産業ノ發展ニ依リ我國生産力ノ増進ニ資スルニ外ナラズ。以上ノ見地ニ基キ特ニ實施ヲ要スト認ムル方策ノ大要左ノ如シ。

- 一 朝鮮、臺灣、樺太、關東州及南洋群島ニ於ケル土地ノ開拓、資源ノ開發、産業ノ發展ニ努メ、就中、朝鮮ニ於ケル食糧増殖計畫並ニ樺太拓殖計畫ノ促進完成ヲ期スルコト。
- 二 日支兩國ノ隔意ナキ協議ニ依リ、滿蒙ニ於ケル土地關係ヲ確實ナラシメ、農業金融機關ヲ充實シ其ノ他在滿蒙內鮮人生活安定ノ爲適當ナル方途ヲ講ズルコト。
- 三 日支日蒙合辦提携其ノ他ノ方法ニ依リ、滿蒙地方ニ於ケル富源ノ開發ヲ期シ、殊ニ食糧及原料生産ノ増進ヲ計ルコト。
- 四 日露兩國ノ隔意ナキ協議ニ依リ、西比利亞地方ニ於ケル富源ノ開發ニ力ヲ協セ、在住內鮮人生活安定ノ爲適當ナル方途ヲ講ズルコト。
- 五 關係諸國トノ充分ナル諒解ノ下ニ、南洋地方ニ於ケル食糧及原料ノ生産増進ニ力ヲ協セ、之ガ爲移民ノ保護、企業ノ獎勵、資金ノ融通等ニ關スル方途ヲ講ジ、當該地方ニ於ケル農事研究所設置ノ助成並ニ臺灣ニ於ケル工業試驗所ノ整備充實其ノ他ノ施設ヲ行フコト。
- 六 臺灣、樺太及南洋群島原住民ヲ衰退ニ歸セザラシメンガ爲其ノ保護救済ニ任ジ、尙ホ又北海道在住アイヌノ指導扶掖ニ努ムルコト。

昭和三年九月二十六日

人口食糧問題調査會食糧部長 山本悌二郎

人口食糧問題調査會會長 男爵田中義一殿

食糧部會ハ諮詢第二號食糧問題ニ關スル對策中水産及畜産ニ關スル方策ニ付緊要ト認メ、急速實施ヲ要スルモノニ關シ夫々慎重審議ヲ遂ゲ別紙答申ヲ決議致候條此段及報告候

答 申

食糧問題ノ解決策トシテ海洋漁業基本調査ヲ行ハシムル爲調査機關ノ設置ヲ緊要ト認ム。仍テ左ノ通り答申ス。

一 海洋漁業基本調査機關ヲ設置スルコト。

説 明

地球全面積ノ三分ノ二ヲ占ムル海洋ノ包藏スル資源ノ無限ナルハ言ヲ俟タズ。況ンヤ狹小ノ國土ヲ擁シテ逐年人口ノ激増ヲ見ツツアル我國ニ在リテハ、海洋ヲ利用シ之ガ開拓ニ依テ水産ノ發展ニ資シ立國ノ基礎ヲ固ウスルノ要極メテ痛切ナルモノアルニ於テヲヤ。今我國ヲ中心トシテ之ヲ考フルモ、南北太平洋ヨリ印度洋ニ亘ル海洋ハ古來無盡ノ資源ヲ藏シ今ニ至リテ尙ホ開發セラルル所甚ダ鮮シ。而モ之ガ開發ニ任ズベキ者我國ヲ措テ他ニ求ムベカラズ。是實ニ我國ニ委セラレタル世界ノ富源タルト共ニ、之ガ開發ハ我國ノ有スル天與ノ使命ナリト謂フベシ。然ル

ニ現在行ハレツツアル海洋ノ調査ハ規模甚ダ小ニシテ、海洋漁業ノ合理的開發ノ目的ヲ達シ難キハ甚ダ遺憾トスル所ナリ。是ヲ以テ海洋漁業ノ基本調査ヲ徹底施行スルガ爲、完全ナル調査機關ヲ設置スルハ洵ニ刻下ノ急務ナリトス。

固ヨリ本調査ハ其ノ範圍廣汎ニ亘リ其ノ内容ハ複雑多岐ナルヲ以テ、之ガ調査機關ノ設置ハ極メテ慎重ナル計畫ヲ前提トスベク、添附參考書類ノ如キハ其ノ計畫案ノ一例ヲ示スモノナルベキモ、尙ホ遺算ナキヲ期スル爲、先ヅ以テ調査機關設置ニ關スル委員會ヲ設ケ、朝野ノ學識經驗者ニ委囑シテ之ガ計畫ヲ慎重審議セシムルヲ要ス。

參考

海洋漁業基本調査

海洋漁業基本調査ハ海洋ノ性狀、水族ノ分布習性ヲ詳ニシ、以テ漁業ノ學術竝ニ應用上ノ基礎ヲ確立シ、海洋資源ノ合理的開發ヲ計ルニ在リ。而シテ其ノ調査事項ノ大要左ノ如シ。

一 海洋ノ科學的調査

- イ 海洋ノ理化學的性狀調査
- ロ 重要水族ノ調査
- ハ 浮游生物ノ調査
- ニ 底棲生物ノ調査
- ホ 其ノ他ノ生物學的調査

二 漁業ニ關スル調査

- イ 漁場ノ變遷移動、漁期ノ早晚移動
- ロ 漁獲物ノ季節的及年の變化竝ニ地方的變化
- ハ 漁況ト海況トノ關係竝ニ漁獲物ノ豐凶豫察

ニ 潮流波浪ト沿岸漁場トノ關係

ホ 漁船ニ關スル研究

ヘ 漁業根據地ニ關スル研究

ト 漁具漁法ニ關スル研究

三 漁獲物處理ニ關スル調査

イ 漁獲物處理ニ關スル物理學的基本研究調査

ロ 漁獲物處理ニ關スル化學的基本研究調査

ハ 漁獲物處理ニ關スル細菌學的基本研究調査

ニ 漁獲物ノ冷凍冷藏ニ關スル基本的研究調査

ホ 漁獲物ノ乾燥ニ關スル基本的研究調査

四 利用的調査

イ 新漁場探検

ロ 漁場圖ノ作製(水深千メートル以内ノ海底圖)

ハ 重要魚類分布圖

ニ 養殖適水面

本調査ヲ遂行スルガ爲本部ヲ東京ニ、支部ヲ長崎、島根、青森、岩手、高知、廣島ノ六箇所ニ置き、而シテ
一、二ハ永久的ニ施設スベキモノナルモ先ヅ三十箇年ノ繼續事業トシテ本調査ヲ完成セムトス。

海洋漁業基本調査ニ關スル經費

金二二、五九四、〇六〇圓

三十箇年繼續事業總額

内 譯

金二八八、七〇六、二六〇圓

經常費

金三三、八八七、八〇〇圓

臨時費

再内譯

一 海洋ノ科學的調査

金八五、八七七、三四〇圓

經常費

金八、五八四、七〇〇圓

臨時費

二 漁業關係事項調査

金三三、四五三、〇四〇圓

經常費

金 六、一五五、七〇〇圓

臨時費

三 漁獲物處理ニ關スル調査

金 四一、四二六、〇〇〇圓

經常費

金 七、九三〇、〇〇〇圓

臨時費

四 海洋ノ利用的調査

金 二七、九四九、八八〇圓

經常費

金 一一、二二七、四〇〇圓

臨時費

海洋漁業基本調査機關設置ニ關スル委員會要項

海洋漁業基本調査委員會ハ農林大臣ノ監督ニ屬シ、同大臣ノ諮問ニ應ジテ海洋漁業基本調査機關設置ニ關スル事項ヲ審議シ、且建議スルヲ得ルモノトス。會長ハ農林大臣之ニ當リ、委員ノ數ハ三十人以内トシ、必要アル場合ニ於テハ臨時委員ヲ置キ、關係各廳高等官及學識經驗アル者ノ中ヨリ之ヲ選任スルモノトス。

答 申

食糧問題解決策トシテ内水面増殖基本調査ヲ行ハシムル爲調査機關ノ設置ヲ緊要ト認ム。仍テ左ノ通り答申ス。

- 一 内水面増殖基本調査機關ヲ設置スルコト。

説 明

本邦ハ河川湖沼ニ富ムノミナラズ溜池用悪水路稻田等約二百萬町歩以上ノ廣大ナル面積ヲ水産的ニ利用スルニ於テハ、其ノ容易ニシテ且的確ノ成績ヲ擧ゲ得ルコト農耕畜産ト毫モ異ナラズ。然ルニ現今ハ之ガ基礎的ノ調査ヲ缺クヲ以テ、僅ニ其ノ適地面積ノ七分五厘ヲ利用スルニ過ギザル状態ナリ。依テ内水面増殖基本調査機關ヲ設置シテ、水界資源ノ科學的開發方法ヲ研究シ、以テ生産増加ノ合理化ヲ期スルコト急務ナリト認ム。

參考

内水面増殖基本調査

内水面増殖基本調査ハ内地水面ノ性狀、水族ノ分布、習性、増殖關係ヲ詳ニシ、以テ水面毎ニ水産ノ生産能力及増殖方策ヲ確立シ、内水面資源ノ合理的開發ヲ計ルニアリ。而シテ其ノ調査事項ノ大要ハ左ノ如シ。

一 内水面ノ科學的調査

イ 内水面ノ地學的調査

ロ 重要水族ノ調査

ハ 浮游生物ノ調査

ニ 底棲生物ノ調査

ホ 内水面ノ理化學的調査

二 漁業ニ關スル調査

イ 漁場漁期漁獲方法

ロ 漁獲法ノ變遷ト漁獲高トノ關係

- ハ 漁獲物ノ季節的及地方的變化
 - ニ 漁場及沈設物ト漁業トノ關係
 - ホ 増殖ト漁獲高トノ關係
 - ヘ 水面生産能力ト漁業トノ關係
 - 三 利用的調査
 - イ 増殖適種ト増殖關係
 - ロ 天然餌料移植調査
 - ハ 魚道スクリーン等ノ調査
- 本調査ヲ遂行スルガ爲内水面基本調査所ヲ東京ニ、支所ヲ^(適當ノ)東北、關東、關西、中國、西南五箇所ニ置ク。而シテ拾箇年繼續事業トシテ本調査ヲ完成セントス。

食糧部(畜産)

答 申

我國ノ現状ニ鑑ミ食糧問題對策中畜産ニ關スルモノノ中急速實施ヲ要スト認ムルモノ左ノ通り答申ス。

畜産ニ關スル方策

畜産ハ食糧ノ需給、國民ノ榮養竝ニ農業經營ノ現状ニ鑑ミ、國家重要産業ノ一トシテ内地、朝鮮、臺灣、樺太及關東州等各地ヲ通シ之ガ振興ヲ期セムガ爲適切ナル獎勵助長ノ方策ヲ講ズルコト緊要ナリト認ム。

説 明

畜産食糧品ハ榮養上極メテ重要ニシテ、殊ニ牛乳及鶏卵ノ如キハ他ノ食品ヲ以テ代用スルヲ得ザルモノナルニ拘ラズ、之ガ生産消費共ニ甚ダ僅少ナルハ國民榮養上ノ一大缺陷ナリトス。而シテ近時國民ノ食品ニ對スル嗜好竝ニ智識ノ向上ニ伴ヒ畜産食糧品ノ消費漸次増加ノ趨勢ニアリ

ト雖モ、尙ホ一層之ガ普及ヲ助長スルト共ニ一方益々廉價豊富ナル供給ヲ圖ルノ必要アリ。更ニ之ヲ農業經營上ヨリ考察スルニ、畜産ハ肥料ノ供給、努力ノ補充及調節竝ニ農家副産物ノ利用等農業ノ合理的經營上極メテ重要ナル要素ナリトス。然ルニ之ガ普及發達未ダ充分ナラザルハ農村振興上頗ル遺憾ナリト云ハザルベカラズ。仍テ政府ハ斯業ノ進展ヲ圖ルガ爲速ニ適切ナル施設ヲ爲スノ要アリト認ム。(人口食糧問題調査會食糧部第三特別委員會小委員會調査書「三十年後ニ於ケル畜産食糧品ノ需給ニ就テ」及内閣拓殖局調査「朝鮮、臺灣、滿蒙及樺太ニ於ケル牛及豚ノ三十年後ニ於ケル需給狀態調」参照。)

畜産振興ニ關スル方策中新ナル施設又ハ現行施設ノ充實擴張ヲ要スベキモノ多ヤアルベシト雖モ、最モ緊急ヲ要スト認ムルモノ左ノ如シ。

一 有畜農業ノ普及ヲ獎勵スル爲適切ナル施設ヲ爲スコト。

説明

本邦農家ハ從來ノ因習ニ依リ無畜農業ヲ營ムモノ多ク、又家畜ヲ飼養スルモノト雖モ其ノ利用ノ程度概ネ低クシテ畜産ノ效果ヲ充分發揮シ得ザル狀態ニアリ。仍テ有畜化ニ依ル農業經營ノ改善、家畜家禽ノ改良増殖、飼料ノ増産竝ニ其ノ利用ノ増進、家畜衛生ノ向上、畜産物加工業ノ振

興、金融ノ圓滑竝ニ畜産指導機關ノ充實擴張等ヲ期スルハ肝要ナリト認ム。

二 食糧消費ノ慣行ヲ改善シ畜産食糧品ニ關スル智識ノ普及ニ努メ其ノ利用増進ヲ圖ルコト。

説明

從來我國ニ於ケル畜産物ノ利用範圍甚ダ狹少ナルヲ以テ、乳、肉、卵及之等ノ加工品ノ消費ニ關スル智識ノ普及宣傳事業ヲ助成徹底セシムルト共ニ、畜産食糧品ノ利用ニ關スル試験研究機關竝ニ共同處理施設ノ充實擴張等ヲ圖ルハ緊要ナリト認ム。

三 一般畜産物ノ取引、輸送及貯藏等ノ改善ニ關スル適切ナル施設ヲ爲シ、以テ之ガ需給ヲ圓滑ナラシムルコト。

説明

畜産物ノ廉價豊富ナル供給ヲ策スルハ我國ニ於ケル畜産物需給ノ現況ニ鑑ミ最モ急務トスル所ナルヲ以テ、取引組織ノ刷新、輸送方法ノ改善、出荷冷蔵事業等ノ助成竝ニ金融ノ圓滑ヲ圖ル等ノ方策ヲ講ズルハ緊急ナリト認ム。

四 牛乳ノ良質、廉價、豊富ナル供給ヲ策スルガ爲之ガ生産、處理、配給ニ關スル組織竝ニ方法ノ改善上適切ナル施設ヲ爲スコト。

説明

四

牛乳ハ國民ノ榮養上重要ナルモノナルニ拘ラズ、市乳ノ處理竝ニ配給ノ關係ハ頗ル圓滑ヲ缺キ延イテハ乳質、乳價ニ對スル影響極メテ大ナルノ現勢ニ鑑ミ、都市ニ於ケル牛乳處理配給所（ミルクプラント）ノ設置助成ヲ圖ルト共ニ、他面農村ニ於ケル牛乳共同處理等ニ對スル助成ヲ充實擴張シテ、農家生産乳ヲ市乳トシテ利用スルノ途ヲ擴メ、以テ良質廉價ノ牛乳ヲ豐富ニ供給スルハ緊要ナリト認ム。

五 食肉ニ關シテハ特ニ内地朝鮮等各地ノ連繫ヲ保チ其ノ廉價、豐富ナル供給ヲ圖ル爲適切ナル施設ヲ爲スコト。

説明

食肉ノ廉價豐富ナル供給ハ我國民食糧ノ現狀ニ鑑ミ緊要ナル事項ニシテ、之ガ爲ニハ内地朝鮮等各地ヲ通シテ生産、配給ニ關スル連繫方策ヲ樹立スルト共ニ取引、輸送、冷蔵、檢疫等ニ關シ適當ナル施設及改善ヲ行フハ必要ナリト認ム。

六 鶏卵ノ増産竝ニ配給ニ關スル施設ノ充實擴張ヲ圖ルコト。

説明

鶏卵ノ増産竝ニ配給ノ改善ニ關スル事業ハ漸ク其ノ緒ニ就カムトシツツアルモ、之ガ施設尙ホ未ダ充分ナラザルノミナラズ、近時勃興ノ氣運ニアル養鶏ニ關スル團體ニ付テモ、其ノ内容及相互ノ聯絡等ニ於テ改善ヲ要スルモノ多ク、其ノ機能ヲ充分ニ發揮シ得ザルノ現狀ニアリ。仍テ養鶏ノ普及獎勵ニ關スル施設竝ニ農村ニ於ケル團體事業ノ充實擴張ヲ圖ルハ急務ナリト認ム。

七 家畜保險制度ヲ速ニ樹立スルコト。

説明

家畜保險制度ヲ確立シ、畜產業者ヲシテ不慮ノ災害ニ因ル損失ヲ免レシムルト共ニ生産資本ノ供給ヲ圓滑ナラシムルハ、畜産ノ發達上緊要ノ事項ナルヲ以テ、政府ハ目下當該ノ機關ニ於テ審議中ニ係ル調査ノ完了、制度ノ樹立ヲ促進シ、其ノ實施竝ニ普及ノ爲適當ナル措置ヲ執ラレムコトヲ望ム。

八 畜産ニ關スル國勢調査ヲ速ニ實施スルコト。

説明

統計ハ畜産方策ノ基礎資料トシテ缺クベカラザルモノナルニ拘ラズ、我國ニ於テハ畜産ニ關スル正確ナル統計ヲ缺キ、方策ノ樹立、施設ノ實行上不利不便尠カラザルヲ以テ、速ニ畜産ニ關スル

五

組織的ノ國勢調査ヲ行フノ必要アリト認ム。

九 畜産食糧品ニ關スル特殊ノ調査審議ノ機關ヲ設置スルコト。

說明

畜産食糧品ニ關スル施設方策及其ノ實施方法等ノ具體的研究竝ニ内地、朝鮮、臺灣、樺太、關東州等ノ間ニ於ケル之ガ連絡統一ヲ圖ルガ爲特ニ調査審議ノ機關ヲ設クルハ緊要ナリト認ム。

三十年後ニ於ケル畜産食糧品ノ需給ニ就テ

人口食糧問題調査會食糧部

第三特別委員會小委員會調査

三十年後ニ於ケル畜産食糧品ノ需給ニ就テ

我國ニ於ケル畜産食糧品ノ生産ハ尙ホ未ダ僅少ナルモ、其ノ消費額ハ年々増加ノ趨勢ニアリ。三十年後ノ將來果シテ幾何ノ需要ヲ見ルニ至ルベキカ、或ハ之ヲ幾何ニ達セシムルヲ適當トスベキカ、今日之ヲ適確ニ推算スルハ、甚ダ困難ナルヲ覺ユルモ、將來ノ方策樹立上極メテ必要ナルコトニ屬ス。

畜産物ノ需要量ヲ推定スルニ當リテハ、國民ノ榮養竝ニ嗜好上ノ要求ヲ第一ニ考慮セザルベカラズ。今フォイトノ標準ニ從ヘバ體重七〇觔ノ成人ノ一人一日ノ所要榮養量ハ蛋白質一一八瓦、脂肪五六瓦、炭水化物五〇〇瓦ニシテ、之ヲ邦人ノ平均體重ヲ假リニ五五觔トシタルモノニ換算スレバ蛋白質九三瓦、脂肪四四瓦、炭水化物三九三瓦トナル。但シ近時右標準ニ依ル蛋白質ノ量ハ多少高キニ失ストノ説多キヲ以テ、邦人ノ所要蛋白質量モ亦右標準ヨリ幾分低下スルコトヲ得ベキガ如シト雖モ、抑モフォイトノ標準ハ動物性及植物性蛋白質ノ適當ナル配合ニシテ榮養上好適ナルヲ前提トシタルモノナルヲ以テ、邦人ニ對スル蛋白質ノ所要量ヲ決定スルニ當リテモ、亦其ノ性質ノ好適ナルコトヲ條件トセザルベカラズ。

由來蛋白質ニハ種類多ク其ノ榮養價值ニ於テモ多大ノ差違アリ、動物性蛋白質ハ其ノ價值最モ大

ニシテ、植物性蛋白質ハ概シテ之ニ劣レリ。而シテ各種動物試験ノ成績ニ徴スレバ、總蛋白質ノ内動物性蛋白質ガ少クモ其ノ三割ニ達スルニ非ザレバ、榮養上充分ノ效果ヲ奏スル能ハズ。特ニ發育旺盛ナル幼少時ニ在リテハ、良質ノ蛋白質ヲ多量ニ要スルハ一般ニ認メラルル所ナリ。實際ニ於テ歐米人ノ食物ニハ動物性蛋白質ガ總蛋白質ノ三割乃至五割ヲ占メ、且其ノ大部分ハ畜産物ヨリ供給セラルル狀況ナリ。今試ミニ現在本邦人ノ攝取シツツアル食物ノ主要成分ヲ算出スレバ左表ノ如シ。

大正十四年成人一人當一日分(總食糧ヲ總人口ノ七割ノ成人數ニ割當ツ)

種別	榮養分總量	比	率	蛋白質	比	率	脂	肪	比	率	炭水化物	比	率
農作物	六九五	九七	七六	八五	一三	七一	六〇六	一〇〇					
水産物	一三	二	一〇	一二	三	一七							
畜産物	五	一	三	三	二	一二							
合計	七二三	一〇〇	八九	一〇〇	一八	一〇〇	六〇六	一〇〇					
總量ニ對スル%	一〇〇		一二		三	七一	八五						

右表ニ依レバ、我國民ノ食物ハ量ニ於テ不足ナキモ質ニ於テ尙ホ適當ナラザルモノアリ。即チ動物性蛋白質ハ總蛋白質ノ一割五分ヲ占ムルニ過ギス。殊ニ畜産物ヨリ供給セラルルモノハ僅ニ三分ニシテ、牛乳及鶏卵ノ如キ榮養價值大ナル食品ノ量著シク僅少ナルハ、我國民ノ榮養上頗ル遺憾ト

スル所ナリ。而モ之等ハ他ノ食品ヲ以テシテハ到底代用スル能ハザルモノナリ。又脂肪分ニ付テ見ルモ、畜産食品中ノ脂肪特ニ牛乳鶏卵中ノモノハ榮養上極メテ優良ニシテ、植物性脂肪又ハ魚油等ノ遠ク及ブ所ニ非ズ。故ニ將來畜産食糧品ノ供給ヲ豊富ナラシムルハ我國民ノ榮養上極メテ緊要ナリト認ム。

食品ノ需要ハ又國民ノ嗜好ニ依リテ支配セラルルモノニシテ、我が畜産食糧品中ニハ古來ノ習慣上未ダ普及セザルモノアルモ、近時其ノ需要ノ狀況著シク變化シ來リ、殊ニ榮養ニ關スル智識ノ向上スルニ從ヒ、榮養ノ價值大ナル食品ニ對スル嗜好ノ益々増進スベキヲ思ヘバ、將來畜産食糧品ノ需要大ニ増加スルハ豫測スルニ難カラザルナリ。

上述ノ如ク國民ノ榮養竝ニ嗜好上畜産食糧品増産ノ必要ナルコト明白ニシテ、更ニ之ヲ本邦農業ノ經營上ヨリ觀察スルモ亦畜産振興ノ極メテ重要ナルヲ認ム。即チ

一 家畜ハ重要ナル食糧品ノ外毛皮、脂骨等ノ必需品ヲ生産ス。

二 家畜ノ糞尿ハ堆肥トシテ地力維持上最も有效ナル肥料ヲ供給ス(硫酸、過燐酸ノ如キ化學肥料ノミヲ連用スレバ漸次地力ノ減退ヲ來ス)。

三 役畜ハ低廉利便ナル勞力ヲ供給ス。

- 四 畜産物ノ加工製造等ニ依リ職業ヲ増加ス。
 - 五 家畜ハ飼料トシテ能ク農家ノ廢物及副産物ヲ利用シ其ノ價值ヲ増進ス。
 - 六 畜産ハ農家勞力ノ分配ヲ適當ナラシム。
- 右ノ如ク畜産ハ直接優良ナル食糧品ヲ供給スルノ外農業經營上種々ノ利益ヲ與ヘ、以テ農家經濟ヲ有利ナラシム、農林當局ノ推定ニ依レバ現在飼養畜類ノ總評價額ハ約九億圓ニ達シ、年々生産セラ
ルル畜産物三億八千萬圓ニシテ、之ニ畜力ノ供給八億七千萬圓ヲ加フレバ十二億五千萬圓ヲ算ス。
以テ我國國民經濟上畜産ノ重要ナルヲ察知シ得ベシ。
- 今假リニ當局ノ參考案(三十年後ニ於ケル各食糧品ノ需給推算)ニ依リ其ノ榮養成分ヲ算出スレバ
左表ノ如シ。

昭和三十三年成人一人當一日分(總食糧ヲ總人口ノ七割ノ成人數ニ割當ツ)

種 別	榮養分總量	比 率	蛋 白 質	比 率	脂 肪	比 率	炭 水 化 物	比 率
農 作 物	六九九	九五	七六	七四	一三	五二	六一〇	一〇〇
水 産 物	二五	三	一九	一九	六	二四	六	一〇〇
畜 産 物	一三	二	七	七	六	二四	六	一〇〇
合 計	七三七	一〇〇	一〇二	一〇〇	二五	一〇〇	六一〇	一〇〇

總量ニ對スル%

一〇〇

一四

三

八三

即チ三十年後ニ於テハ現在ニ比スレバ蛋白質及脂肪ノ量増加シ、就中水産物及畜産物ノ蛋白質ハ總
蛋白質ノ二割六分ヲ占ムルニ至リ、現在一割五分ナルニ比スレバ我國國民ノ榮養上著シキ改善ヲ加ヘ
得ルモノト看做シ得ベク、未ダ前述ノ理想ニハ達セザルモ我國情ヲ考慮セバ之ヲ以テ略満足セザ
ルベカラズ。但シ參考案ニハ牛ノ頭數三百萬頭中乳牛ヲ三十五萬頭、年産乳量三百三十萬石トセル
モ、乳牛ハ飼料ヲ最も經濟的ニ利用スルモノニシテ且牛乳ハ食品トシテ理想的成分ヲ具備シ殊ニ
小兒ノ生育上必要大ナルヲ以テ、乳牛頭數ハ更ニ増加セシムルヲ至當ト認ム、即チ乳牛六十萬頭、
役牛二百五十萬頭合計三百五十萬頭トスレバ、牛肉生産ニハ殆ンド變動ヲ來サズシテ乳量ハ約六百
萬石即チ一年一人當約六升五合ニ達スベシ。之ヲ現在ノ牛乳及乳製品ノ消費量一升四合ニ比スレ
バ約五倍ニ當リ、一見稍過大ノ觀アルガ如シト雖モ、尙ホ未ダ現在ニ於ケル東京市民ノ一人當消費
量ニ對シ遙ニ及バザルモノニシテ、單ニ近年ニ於ケル需安増加ノ趨勢ニ從フモ三十年後ニ於テ三百
三十萬石ニ達スベキ推算ナルヲ以テ、少シク之ガ使用ヲ獎勵セバ更ニ需安ノ増加スベキハ疑ヲ容
レズ。現今一箇年ノ増加率ハ約三%ナルモ之ヲ六%ニ増加スルモノトセバ、三十年後ニハ前記六百
萬石ヲ要スル計算トナル。

今當局ノ參考案ニ依リ大正十四年及昭和三十三年ニ於ケル畜産食糧品ノ需要量ヲ示セバ左表ノ如シ。

大正十四年

家畜	畜數	畜産食糧品總需要量	一年一人當
乳牛	一二〇、〇〇〇 _頭	八八〇、〇〇〇 _斤	一升四合
役牛	一、三〇〇、〇〇〇 _頭	一一二、〇〇〇、〇〇〇 _斤	一、八九斤
豚	七〇〇、〇〇〇 _頭	七〇、〇〇〇、〇〇〇 _斤	一一七斤
成鶏	二〇、〇〇〇、〇〇〇 _頭	五〇、〇〇〇、〇〇〇 _斤	〇、八四斤
備考	右ノ内輸移入量	（輸移出） （移入） （移入）	肉類計三、九斤 三、〇二斤 卵三、三個
牛乳乳製品トシテ）	一、三〇、〇〇〇 _斤	二〇、〇〇〇 _斤	
鶏卵	三六、〇〇〇、〇〇〇 _個	二〇、〇〇〇、〇〇〇 _個	
鶏卵	三三、〇〇〇、〇〇〇 _個		

昭和三十三年

家畜	畜數	畜産食糧品需要量	一年一人當
乳牛	六〇〇、〇〇〇 _頭	六、〇〇〇、〇〇〇 _斤	六升五合
役牛	二、五〇〇、〇〇〇 _頭	二五五、〇〇〇、〇〇〇 _斤	二、八六斤

豚	三、三〇〇、〇〇〇 _頭	三三〇、〇〇〇、〇〇〇 _斤	三七二斤
成鶏	八〇、〇〇〇、〇〇〇 _頭	二〇〇、〇〇〇、〇〇〇 _斤	二、二五斤
備考	牛乳ハ前記ノ推算ニ依ル	九九〇、〇〇〇、〇〇〇 _斤	一一、一〇斤 卵一二〇個

前記需要量ニ對シ内地ニテ之ヲ供給シ得ルヤ否ヤニ關シテ少シク論及セム。
家畜ノ飼養頭數ハ主トシテ飼料ノ供給如何ニ依リテ制限セラルルモノナルモ、農林當局ノ推定ニ依レバ我國ニ於テ家畜ニ利用セラルル粗芻即チ野草、綠肥用作物、藁稈類等ハ三十年後ニ於テハ相當増産ノ見込アリ。飼料作物栽培ノ普及及竝ニ飼養法ノ改善等ト相俟ツニ於テハ裕ニ前記三十年後ノ推算頭數ヲ飼養スルヲ得ベシ。濃厚飼料モ亦農産ノ増殖ニ伴ヒ自ラ増加スベク、又現ニ肥料トシテ用ヒラルル大豆粕ノ如キモ漸次飼料ニ轉用シ得ベシ。斯クノ如クシテ前記推定ニ依ル畜産食糧品ノ供給ハ敢テ困難ナルヲ認メズ。大體ニ於テ自足自給ノ方策ヲ樹立シ得ベキモノト信ズ。

朝鮮、臺灣、滿蒙及樺太ニ於ケル牛及豚ノ三十年後ニ
於ケル需給狀態調

內閣拓殖局調査

朝鮮、臺灣、滿蒙及樺太ニ於ケル牛及豚ノ三十年後ニ於ケル需給狀態

朝鮮總督府、臺灣總督府、關東廳及樺太廳ノ調査ニ依レバ朝鮮、臺灣、滿蒙及樺太ニ於ケル牛及豚ノ三十年後ニ於ケル需給狀態大體左ノ如シ。

第一牛

(甲) 現在ニ於ケル需給狀態

現在朝鮮ニ於ケル牛ノ總數ハ約百六十萬頭、臺灣ハ約三十八萬頭、滿蒙ハ約二百十萬頭、樺太ハ約三千頭ニシテ其ノ需給狀態左表ノ如シ。

地名	現在頭數	一箇年消費量	一箇年一人當消費量	輸移出入量(印ハ輸出、移入量)	備考
朝鮮	一、五九〇、八〇六	二九六、一五三	四〇〇	四八、六九三	昭和二年末
臺灣	三八一、一五九	三、九一九、三〇六	〇・九四	ナシ	同 元年末
滿蒙	二、一〇〇、〇〇〇	一六〇、〇〇〇	?	一一〇、〇〇〇	同 二年末
樺太	三、一〇九	二二五、九六八	一・一一	△ 七一、八四三	同 元年末

輸移出入量欄中朝鮮ノ分ハ全部内地向ニシテ、滿蒙ノ分中二萬頭ハ内地向、九萬頭ハ滿蒙以外ノ支那及露領向トス。

(乙) 三十年後ニ於ケル需給狀態

前述ノ如ク現在ニ於ケル朝鮮、臺灣、滿蒙及樺太各地ノ輪移出量ハ未ダ其ノ數多カラザルモ、今後各種ノ獎勵助長ノ方策ヲ講ズルニ於テハ、將來各地共著シク之ヲ増加セシムルコトヲ得ベク、其ノ需給狀態見込大體左表ノ如シ。

朝鮮

年次	畜牛頭數	供給可能頭數	消費頭數	輪移出可能頭數
昭和十六年	二、一四〇、〇〇〇	四五七、〇〇〇	三〇〇、〇〇〇	一五七、〇〇〇
同三十一年	二、八〇〇、〇〇〇	六二二、〇〇〇	三六六、〇〇〇	二五六、〇〇〇

臺灣

年次	畜牛頭數	供給可能頭數	消費頭數	輪移出可能頭數
昭和十六年	四四一、七三七	四四一、七三三	三二、九二九	一一、二四四
同三十一年	四七六、一七七	四七、六一八	四一、二五二	六、三六六

滿蒙

詳細不明ナルモ將來内地へ輸出可能頭數約十二萬頭。

樺太

年次	畜牛頭數	供給可能頭數	消費頭數	輪移出可能頭數又ハ輸入頭數(印ハ輪移入頭數)
昭和十六年	八四、八二四	一〇、九四七	一七、九一〇	△ 六、九六三
同三十一年	五二二、六六〇	八一、一〇二	四七、三五八	三三、七四四

朝鮮ニ在リテハ新ニ獎勵助長ノ方策ヲ講ズルコトナク現狀ノ儘推移スルモノトセバ、將來十五年後ニ於テ枝肉約六千頭、生牛約五萬頭ヲ移出シ得ルニ過ギズ。更ニ三十年後ニ於テハ移出牛ヲ現狀ノ儘トセバ鮮内食肉ノ不足ヲ來スニ至ルベシ。然レ共前記ノ如ク將來二百八十萬頭ニ増殖スルトキハ、鮮内食肉ノ不足ヲ補フノミナラズ約二十六萬頭ヲ移出スルコトヲ得ベシ。

臺灣ニ在リテハ將來消費ノ遞増ヲ豫想セラルルヲ以テ、輪移出量ノ著シキ増大ヲ期スルコト能ハザルモ、將來四十七萬頭ニ増殖スルトキハ島内消費ヲ差引キ約六千頭ノ輪移出ヲ爲スコトヲ得ベシ。

樺太ニ在リテハ現在輪移出ナク寧ロ島外ヨリ之ヲ移入セルモ、將來移住農家ノ増加ニ伴フ畜牛ノ獎勵助長等ニ依リ三十年後ニ於テハ畜牛總數五十二萬頭ニ上リ約三萬四千頭ノ輪移出ヲ爲スコトヲ得ベシ。

第二豚

(甲) 現在ニ於ケル需給狀態

現在朝鮮ニ於ケル豚ノ總數ハ約百十五萬頭、臺灣ハ約百五十四萬頭、滿蒙ハ約六百萬頭、樺太ハ僅ニ三千頭ニシテ各地共輪移出ナク樺太以外ハ殆ンド自給自足ノ狀態ニ在リ。即チ左表ノ如シ。

地名	現在頭數	屠豚生産可能頭數	消費頭數	輪移入頭數	備考
朝鮮	一、一五〇、〇二七	一、〇六八、八八八	一、〇六八、八八八	ナシ	大正十四年末
臺灣	一、五四二、八二九	九二一、三〇六	九二六、六二七	輪移入 計 二、八五六 五、三二一	昭和元年末
滿蒙	六、〇〇〇、〇〇〇	二、七〇〇、〇〇〇	二、七〇〇、〇〇〇	ナシ	同二年末
樺太	二、六一七	一、九〇〇	二、八〇六	九〇六	同元年末

(乙) 三十年後ニ於ケル需給狀態

豚ニ付テモ將來各種ノ獎勵助長ノ方策ヲ講ズルトキハ各地共著シク其ノ頭數及個體ノ斤量ヲ増加セシムルコトヲ得ベシ。即チ三十年後ニ於ケル需給狀態左表ノ如シ。(滿蒙ハ不明)

朝鮮

年次	養豚頭數 (年末現在)	屠豚生産可能頭數	消費頭數	輪移出可能頭數
昭和十一年	一、六五〇、〇〇〇	一、六三五、〇〇〇	一、五六〇、〇〇〇	七五、〇〇〇
同二十一年	二、一五〇、〇〇〇	二、一二四、〇〇〇	一、七一〇、〇〇〇	四一四、〇〇〇
同三十一年	二、六五〇、〇〇〇	二、六五〇、〇〇〇	一、八四〇、〇〇〇	八一〇、〇〇〇

臺灣

年次	養豚頭數 (年末現在)	屠豚生産可能頭數	消費頭數	輪移出可能頭數
昭和十一年	一、七八七、四八八	一、二五一、二四二	一、〇五三、〇三四	一九八、二〇八
同二十一年	二、四八九、四四〇	一、九九一、五五二	一、二六三、八四五	七二七、七〇七
同三十一年	三、三五九、七四八	三、三五九、七四八	一、四〇八、〇九五	一九五一、六五三

樺太

年次	養豚頭數 (年末現在)	屠豚生産可能頭數	消費頭數	輪移出可能頭數
昭和十六年	二七四、九六四	二二二、五七〇	四四、二二一	一八八、三四九
同三十一年	九六六、〇〇〇	八四三、一六五	一五三、八〇五	六八九、三六〇

股 長
永井 伯 矩
七五
七六

會 長



田中會長殿
望目副會長殿

三井物産株式會社

記 書

官 保 關

七三 山崎建輔殿
七二 牧野真久殿
七一 廣田久吉殿
七〇 河原田一藏殿
六九 鳩山榮作殿
六八 矢野龍溪殿
六七 小島虎次郎殿
六六 加藤弘之殿
六五 上野有造殿
六四 池田有造殿
六三 上野有造殿
六二 上野有造殿
六一 上野有造殿
六〇 上野有造殿
五九 上野有造殿
五八 上野有造殿
五七 上野有造殿
五六 上野有造殿
五五 上野有造殿
五四 上野有造殿
五三 上野有造殿
五二 上野有造殿
五一 上野有造殿
五〇 上野有造殿
四九 上野有造殿
四八 上野有造殿
四七 上野有造殿
四六 上野有造殿
四五 上野有造殿
四四 上野有造殿
四三 上野有造殿
四二 上野有造殿
四一 上野有造殿
四〇 上野有造殿
三九 上野有造殿
三八 上野有造殿
三七 上野有造殿
三六 上野有造殿
三五 上野有造殿
三四 上野有造殿
三三 上野有造殿
三二 上野有造殿
三一 上野有造殿
三〇 上野有造殿
二九 上野有造殿
二八 上野有造殿
二七 上野有造殿
二六 上野有造殿
二五 上野有造殿
二四 上野有造殿
二三 上野有造殿
二二 上野有造殿
二一 上野有造殿
二〇 上野有造殿
一九 上野有造殿
一八 上野有造殿
一七 上野有造殿
一六 上野有造殿
一五 上野有造殿
一四 上野有造殿
一三 上野有造殿
一二 上野有造殿
一一 上野有造殿
一〇 上野有造殿
〇九 上野有造殿
〇八 上野有造殿
〇七 上野有造殿
〇六 上野有造殿
〇五 上野有造殿
〇四 上野有造殿
〇三 上野有造殿
〇二 上野有造殿
〇一 上野有造殿

進 記

四七 津崎尚武殿
四六 佐藤友衛門殿
四五 前田利定殿
四四 前田利定殿
四三 三輪市太郎殿
四二 東武殿
四一 林傳太郎殿
四〇 大塚勝太郎殿
三九 有島健助殿
三八 秋田重政殿
三七 塩澤昌貞殿
三六 小松壽殿
三五 湖惠之輔殿
三四 武智直道殿
三三 内田嘉吉殿
三二 内田嘉吉殿
三一 内田嘉吉殿
三〇 内田嘉吉殿
二九 内田嘉吉殿
二八 内田嘉吉殿
二七 内田嘉吉殿
二六 内田嘉吉殿
二五 内田嘉吉殿
二四 内田嘉吉殿
二三 内田嘉吉殿
二二 内田嘉吉殿
二一 内田嘉吉殿
二〇 内田嘉吉殿
一九 内田嘉吉殿
一八 内田嘉吉殿
一七 内田嘉吉殿
一六 内田嘉吉殿
一五 内田嘉吉殿
一四 内田嘉吉殿
一三 内田嘉吉殿
一二 内田嘉吉殿
一一 内田嘉吉殿
一〇 内田嘉吉殿
〇九 内田嘉吉殿
〇八 内田嘉吉殿
〇七 内田嘉吉殿
〇六 内田嘉吉殿
〇五 内田嘉吉殿
〇四 内田嘉吉殿
〇三 内田嘉吉殿
〇二 内田嘉吉殿
〇一 内田嘉吉殿

人

人

會食糧問題調查會
表次序會總

新 事



會 長

田中會長殿
望月副會長殿

山本副會長殿

記 書

官 係 關

山崎建太郎 股
牧野東 股
廣田文吉 股
河野田一 股
鳩山榮 股
矢野直 股
山崎美太郎 股
井上雅二 股
池上光太郎 股
上村安太郎 股
上村隆吉 股
鈴木田 股
吉田達一 股
大田信 股
四谷隆良 股
岩崎重 股
氣村村 股
下村美 股

津崎尚武 股
佐藤友衛門 股
前田米藏 股
前田利定 股
三輪市太郎 股
東 武 股
林博太郎 股
大塚勝太郎 股
有島健助 股
秋田重政 股
塩澤富貞 股
小松壽 股
潮惠之輔 股
武智直道 股
田嘉吉 股

四 佐藤昌次 股
五 秋田清 股
六 新渡戸造 股
七 古植庄一郎 股
八 森平兵衛 股
九 永井亨 股
一〇 三井清一郎 股
一一 藤田一 股
一二 桑山鐵男 股
一三 河部壽準 股
一四 八田嘉明 股
一五 今井五 股
一六 宮尾舜治 股
一七 溝口直亮 股
一八 山本美起 股
一九 堤清大 股
二〇 馬場鉄一 股
二一 宇佐美勝夫 股
二二 中川小十郎 股
二三 鈴木梅太郎 股
二四 福田徳三 股
二五 藤山雷太 股
二六 黒田英雄 股
二七 長岡隆一郎 股
二八 島園順次 股
二九 目田藤三郎 股

連 記

人 口

人 口

人口食糧問題調査會幹事長以下出席表

第三回 總會



一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	十一	十二	十三	十四	十五	十六	十七	十八	十九	二十	二十一	二十二	二十三	二十四	二十五	二十六	二十七	二十八	二十九	三十
川西實三	大雄	松村貞一郎	長瀬貞一	戸田保忠	村上龍太郎	村野信次	長川豐樹	前田	鐵道書記官	農林省書記官	農林省畜產局長	農林省水產局長	農林省農務局長	大藏書記官	社會局書記官	川西實三	大雄	松村貞一郎	長瀬貞一	戸田保忠	村上龍太郎	村野信次	長川豐樹	前田	鐵道書記官	農林省書記官	農林省畜產局長	農林省水產局長	農林省農務局長

事務 官 長 官

人口食糧問題調査會幹事長以下出席表

第三回 總會

昭和三年九月二十七日

於首相官邸

開會 午前十一時三十分
閉會 午後四時十分

幹事長 內閣書記官長 鳩山 一郎

幹事

內閣書記官 橫溝 光暉
內閣拓殖書記官 北島 謙次郎
內閣統計局書記官 高田 太一
法制局參事官 村瀬 直養
資源局書記官 植村 甲午郎
外務書記官 大橋 忠一
內務書記官 安井 英二
同 大島 振次郎
社會局部長 市野 榮次郎

社會局書記官 川西 實三
大藏書記官 大雄
農林省農務局長 松村 貞一郎
農林省水產局長 長瀬 貞一
農林省畜產局長 戸田 保忠
農林省書記官 村上 龍太郎
農工書記官 村野 信次
商工書記官 長川 豐樹
鐵道書記官 前田

書記

内務	同	同	同	同	同	同	同	同	同
關	關	關	關	關	關	關	關	關	關
屬	屬	屬	屬	屬	屬	屬	屬	屬	屬
漆原 一郎	石井 善藏	松澤 辰藏	池上 武雄	依光 重親	大森 喜之助	二見 孝平	村田 福次郎	外務	内務

社會局	同	同	同	同	同	同	同	同	同
屬	屬	屬	屬	屬	屬	屬	屬	屬	屬
天谷 健二	鳥海 剛	堀 茂	伊原 廣治	風早 義雄	荒川 浩	内山 總一郎	鐵道	商工	信工

關係官

社會局事務官	安積 得四
農林技師	石崎 芳吉
同	釘木 昌二
同	成田 繁
同	板井 申生

第四回總會議事概要

一日時 昭和四年十月十九日 午前十時三十五分開會
場所 首相官邸
出席者 別紙ノ通

議事

安達副會長 議長席ニ著キ濱口會長ハ本日風邪静養中ニ付自分
ガ代ヲ司會スル旨ヲ述ベ食糧部會報告ニ係ル別紙「大規模開墾」件
ヲ議題ニ供ス。先ツ横濱幹事 柴ヲ朗讀シ次テ町田食糧部長ハ部會ノ
経過ヲ報告シ更ニ矢作委員ハ林特別委員長ニ代テ特別委員會ノ経過
ヲ述バ報告後質疑入り後揚ノ如キ應答ヲ重シ討論ニ入リ村上委
員ヨリ希望付賛成意見ヲ述ベタルノミテ採決ニ移リ満場一致ヲ以テ
原案ヲ可決ス。

安達副會長ハ人口部長トシテ報告ノ為議長席ヲ町田副會長ニ譲ル。

一町田副會長議長席著々人口部會報告ニ係ル別紙人口統制及生産力増進ノ二方策ヲ一括議題ニ供シ横濱幹事ノ朗讀。人口部長ノ報告及藤村特別委員長ノ報告ヲ求リ。藤村委員長ハ特ニ詳細ナル報告ノ後昨日ノ部會ニ於ケル質疑。意見等ヲモ陳述ス。後掲ノ如キ質疑ヲ供シ討論スルヤ佐伯。柳澤。島蘭ノ三委員長ハ條口動議出テモモ質疑者ナキ為議題トシテ採決ノ結果存案双方トモ可決セリ。

食糧部關係

新渡委員 民間開墾事業ニ對シテ保護スル續リカ

矢作委員 主要工事ヲ國費ナヤル

佐藤昌實 國營開墾ノ今日迄ノ成績如何。田不毛集團地ニ止マシ林野ニ對シテハ開墾ヲ進ムル力。田不毛地ノ開墾シテ國營トシ又民間ニシテ國費ヲ補助スルノ收約約ニ耕作シテ農作ヲ増進スルノトハ何レカ利多キモ

町田部長 四五町歩以上ノ集團地ヲ調査シテ第一回ノ計畫ニ入レカ昭和四年度ニ於テハ墾殖政策ノ為實現ヲ見ス。昭和五年年度豫算ニハ編入サレテアル田山林行政ト農務行政トハ利害ヲ考慮スレテ開墾ノ調査ヲ進メタル田山林安定ヲ基ニシテ他收穫ヲ計リ且ツ品價ノ改良ヲ計リツツアル津崎委員 河川改修ハ耕地ヲ考慮シテ進ムル。内務省ト農務省トノ連絡如何

有働技師 食糧問題解決ノ見地ヨリ開墾ニ重キヲ置クナリ

今井委員 内地朝鮮ニ於テ夫々産米増殖計畫ヲ樹テテナカ利害ノ衝突ナキモ

町田部長 目下若穀調査會ニ於テ審議中ナリ。

今井委員 朝鮮米ノ増殖計畫ニ依リ内地ハ恐慌ヲ受ケタルカ

町田部長 月割輸入ニ関スル施設ハ誤解サレテアル

矢作委員 振務省新設ニ付内地ハ朝鮮ニ滿同ノ連絡ガ円滑ニナリ

村上委員 本案可決後政府ニ於テ実行セム場合ニハ農業水利ト漁業水利トノ接觸ニ付テ相當中配慮ヲ要シトテ希望ノ上賛成ス

人口部關係

矢作委員 生産力増進方策中 勞働保護ニ関シ失業防止分配問題ニ

ハ及ハサルヲモテ特別委員會ヲ論議ハナカフカ

永井委員 生活及職業保障ニ付テハ未春早ニ審議スル積リ

三井委員 女子体育、女子康養ニ関シテ文部省ハトノ程度ニ知識ノ普

及フ計ヲチルカハ委員會ニ任過如何

藤村委員 文部省ノ意見、同ノ機會カナカク

三井委員 生産力増進方策「六」項ニ付米價調節ノ点ヲ如何ニシヤ

藤村委員 細部ノ点ハ食糧部ノ事項ニ付審議セナカフ

三井委員 七項ノ工場ノ地方的分布ニ付テ具体的方法擬セウシヤ

藤村委員 特別委員會ノ案ハ大綱ヲ示シテ文ヲデレ

三井委員 農業倉庫ニ於テ貯藏減ノニ付調査アリ

石田幹事 ナシ

島田委員 人口統制案中「二」項ニ何故漁村ヲ加ヘサルカ。「三」項以下

ハ主トシ女子ト子供ノ事ノヨリデハ男子ノ方ハ如何

永井委員 普通農村ト云ハ山村漁村モ含メタル。男子ハ勿論婦女子ニカ

ヲ入レナカレ

佐伯委員 人口統制案中「一」項ニ結婚ノ外梅毒ヲ入レヌカ。七項迄

事上ノ相談ニ應ズモハ經濟上ノ理由ニ依ルモハ包含セシメサルカ

永井委員 死亡率減少ノ目的ノ下ニ立案セタル梅毒ハ入レナカフ

個人ノ立場ヨリデナリ政府又ハ公共團體等ニ於テ必要ト認ムモノニ對スル

方針デアル

修正意見

佐伯委員 人口統制案「一項中 續核ノ下ニ」及梅毒ヲ
ヘラレタレ

柳澤委員 昨日ノ部會ノトキト同様ノ修正

島蘭委員 人統案「一項中 特ニ」以下ヲ削リ「因ルコト」トシ
「二項ノ趣旨ヲ」一項ニ包含セラルコト

以上

昭和三年十月十一日

人口食糧問題調査會食糧部長 山本悌二郎

人口食糧問題調査會會長 男爵田中義一殿

食糧部會ハ諮詢第二號食糧問題ニ關スル對策中農産ニ關スル方策ニ付急速實施ヲ要スト認ムルモ
ノニ關シ慎重審議ヲ遂ゲ別紙答申ヲ決議致候條此段及報告候

答 申

我國ノ現状ニ鑑ミ食糧問題對策中農産ニ關スルモノノ中急速實施ヲ要スト認ムルモノ左ノ通り答申ス。

一 大規模開墾ヲ促進スル爲其ノ用排水主要工事ヲ國營ニテ施行スルコト。

説 明

我國民ノ食糧ヲ國內ニ於テ供給スルガ爲ニハ開墾ニ依リ耕地ヲ擴張スルコト急要ナリ。然ルニ開墾適地中大規模ノモノハ概ネ數村又ハ數郡ニ跨リテ之ガ企業經營容易ナラズ、爲ニ民間ノ事業トシテ之ガ實行ヲ望ムハ頗ル難シトスルノ狀況ニアリ。政府ハ既ニ昭和二年度ヨリ大規模開墾計畫ノ豫算ヲ計上シ適地ノ調査設計ヲ進メツツアリ。而シテ之ガ計畫ノ實現ニ付テハ國自ラ進ンデ其ノ事業中ノ用排水主要工事ヲ施行シ開墾ヲ促進スルヲ最も良策ナリト認ム。依テ政府ハ速ニ之ガ實行ニ著手セラレムコトヲ望ム。

昭和四年十二月十八日

人口食糧問題調査會人口部長 安達謙藏

人口食糧問題調査會會長 濱口雄幸殿

人口部會ハ諮詢第一號人口問題ニ關スル對策中人口統制及生産力増進ニ關スル方策ニ付慎重審議ヲ遂ゲ別紙答申ヲ決議致候條此段及報告候

答 申

人口問題ニ關スル對策中人口統制ニ關シ緊急實施ノ要アリト認ムル諸方策ニ付左ノ通り答申ス。

人口統制ニ關スル諸方策

人口ノ民勢的狀態健全ナル場合ニ在リテモ之ニ統制ヲ加フルニ非ザレバ國力ノ發展、産業ノ振興ハ其ノ萬全ヲ期スルヲ得ズ。之ヲ我國人口ノ動態ニ徴スルニ死亡率甚ダ高クシテ未ダ其ノ低減ノ傾向ヲ認ムルコト能ハズ。而モ出生率更ニ著シク高クシテ其ノ結果人口ノ自然増加ノ率ハ高率ヲ示シ所謂多産多死ノ畸形態ニ屬ス。此ノ狀態ハ大都市ニ比シ地方農村ニ於テ甚シク、又一般ニ生活程度低キ社會ニ於テ然ルヲ見ル。殊ニ乳兒幼年及青年ノ死亡率高ク爲ニ國民ノ平均餘命短ク生産年齡期ニ於ケル人口ノ割合他國ニ比シ少ク、就中青年女子ノ死亡率男子ニ比シテ高率ヲ示スハ誠ニ寒心ニ堪ヘザル所ナリ。上述ノ狀態ヲ改善シテ數及質ノ上ニ於テ健全ナル人口狀態ヲ實現スルハ我國人口問題解決上一日ヲ緩ムスルヲ得ザル最緊要ノコトニ屬ス。

以上ノ見地ヨリ人口對策上緊急實施ヲ要スト認ムルモノ左ノ如シ。

- 一 社會衛生ノ發達、國民保健ノ向上ヲ圖リ特ニ結核防止ニ努ムルコト。
- 二 地方農村並ニ都市勞働者住居地域等ニ於ケル衛生保健施設ニ特ニ力ヲ致スコト。
- 三 女子體育ノ獎勵、女子榮養ノ改善ヲ圖ルコト。
- 四 保健衛生上ノ見地ヨリ女子職業ニ關スル指導ヲ行フコト。
- 五 女子及幼少年者ノ勞働保護並ニ幼年者酷使ノ防止ニ遺憾ナカラシムルコト。
- 六 母性保護及兒童保育ニ關スル一般的社會施設ヲ促成スルコト。
- 七 結婚、出産、避妊ニ關スル醫事上ノ相談ニ應ズル爲メ適當ナル施設ヲ爲スコト。
- 八 避妊ノ手段ニ供スル器具藥品等ノ頒布、販賣、廣告等ニ關スル不正行爲ノ取締ヲ勵行スルコト。
- 九 優生學の見地ヨリスル諸施設ニ關スル調査研究ヲ爲スコト。

人口部

生産力増進ニ關スル答申

我國ノ産業ハ明治以降國家ノ保護獎勵ト戰爭ノ影響餘澤トニ依テ頗ル顯著ナル發展ヲ遂ゲタリト雖モ之ヲ現狀ニ徴スルモ年次ノ増加人口ヲ支フルニ足ラズ、生産力増進ノ方策ヲ講ズルハ人口問題ノ解決上極メテ緊要ノ事ニ屬ス。之ガ方策固ヨリ一ニシテ足ラズト雖モ就中重要且緊切ナリト認ムルモノヲ擧グレバ左ノ如シ。

- 一 産業政策ハ民間企業ノ自主的作興ノ機運ヲ醸成セシムルコトヲ眼目トシ國家ノ直接保護ハ必要止ムヲ得ザル場合ニ止メ、産業發達ノ障礙トナルベキ原因ヲ除去スルコトニ努ムルコト。
- 二 國民經濟ノ根幹タルベキ主要工業ニ關スル根本的調査ヲ遂ゲ、之ニ對スル國民的自覺ヲ喚起シ、其ノ發展ヲ期スルコト。
- 三 技術ノ改良、發明ノ獎勵ニ力ヲ致シ、特ニ新工業ノ勃興ヲ圖ルコト。
- 四 國ノ内外ニ亙リ天然資源ノ供給ヲ充實スルノ途ヲ講ジ、海外移植ノ施設ヲ爲スニ當リテハ特

ニ此ノ點ヲ考慮スルコト。

五 合理的統制及經營ノ方針ノ下ニ産業制度及企業組織ノ改善ヲ期シ、生産費ノ節約、生産能率ノ増進ヲ圖ルコト。

六 農地及小作制度ノ改善ヲ期シ、農事ノ改良、技術ノ應用ニ力ヲ用ヒテ農業ノ衰退、農村ノ疲弊ヲ防止シ、農工業並進ノ實ヲ擧グルコト。

七 地方的産業並農村副業ノ普及發達ニ努メ、就中工場ノ地方的分布ヲ圖リ、農村ノ工藝的副業ヲ獎勵スル等職業及労働ノ配分ヲ適當ナラシムルコト。

八 農業及小工業ニ關シテ産業組合其ノ他ノ組合制度ノ促成刷新ヲ期スルコト。

九 労働力ノ保護増進ニ關スル労働政策ヲ確立スルト共ニ労働立法ノ完備ヲ期スルコト。

十 労働能率及労働時間ニ關スル基本調査ヲ行フコト。

十一 労働教育ノ普及發達ヲ期スルコト。

耕地擴張見込地中五百町歩以上集木團地調

說明

一本調査ハ各府縣(北海道ヲ除ク)耕地擴張見込地中概測五百町歩以上ノ集團地ニ付昭和三年末現在地方廳ノ調査ニ依リ事業未着手ノモノミシテ掲記セルモノナリ而シテ猶調査漏ナキニアラサルヘシ

二大阪・富山・島根・香川ノ各府縣ニ於テハ五百町歩以上ノ開發見込地ノ調査ナキヲ以テ比較的大面積ノ見込地各々所ヲ掲記セリ其ノ他ノ地方ニ於ケル五百町歩以下相當大面積ノ見込地ハ數多アルモ茲ニハ之ヲ省ケリ

耕地擴張見込地中五百町歩以上集團地調査		
府縣	地區數	開發見込總面積
東京	二	三五七五町
京都	一	六四四
大阪	一	一四九
神奈川	六	一一九六四
兵庫	七	四一五六
長崎	一	六〇〇
新潟	六	五〇一九
埼玉	五	一三〇五八
群馬	四	一一〇一八
千葉	二	二一八四一
茨城	三	四六三四二
栃木	二	二〇三一四

石富福鳥島岡廣山和徳香愛高福
 歌
 川山井取根山島山口島川媛知岡

八 一 一 一 一 三 三 四 二 四 一 一 一 一 五

五 九 六 五 一 一 一 二 一 七 三 一 三 二 六
 三 〇 二 四 七 二 四 八 九 〇 二 一 二 〇
 三 〇 七 〇 九 〇 八 〇 〇 〇 一 九 五 〇

奈三愛静山滋岐長宮福岩青山秋
 良重知岡梨賀阜野城島手森形田

二 一 三 一 二 二 三 八 五 七 一 一
 二 八 九 〇 四 二 七 二 三 八 五 七 一 一

三 二 二 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一
 八 六 三 九 七 四 六 一 五 四 四 一 一 一
 九 五 〇 五 〇 六 〇 九 〇 五 三 一 七 二
 三 〇 七 二 八 三 〇 七 五 六 七 四 〇 三
 七 〇 八 二 五 一 二 九 三 六 一 三 〇 〇

大分	一	九
佐賀	三	一
熊本	七	一
宮崎	四	九
鹿児島	五	二
沖繩	一	六
計	三	三

米國及和蘭の國營開墾事業

米國に於て開墾事業を國營にて施行しつゝ、あるは西部の十七州に殆んど限られたる状況である。西部十七州は東部の各州に比し年内降雨量極めて少く一般畑作物も灌漑を第一要件とするから比較的大區域に亘り且州管或は民營にて施行困難と認むるものに付き政府事業として之を行ふ者も、合衆國が國營開墾事業を開始せるは西曆千九百二年國營開墾法發布と同時にあつてコロラド州デンバー市に開墾局の出張所を設け各國營開墾地區には更に支所を置き事業を統轄して居る。一九〇二年以降一九二六年六月迄に政府の投下したる事業資金は五億万圓に垂んとし開墾面積七千万町歩と外に既耕地の灌漑用水を補給せる面積五千万町歩餘に上り國營事業の結果増殖せられたる農産物年價額は二億八千万圓と称せらる。

事業施行の方法は政府に於て水利に關する全般の工事及開墾地内の

道路工事を多し開墾地移住民或は其の土地の耕作者が土地の代り
拓きを行ふ順序になつて居る

政府は區域全般に亘る耕作者定まり其の利用偏きに到る迄は工事の外
に諸設備の維持管理は勿論各農區に對する水配りをも直裁し水利
の良慣習を馴致することに努めて居る

昨今に於ける一段歩當りの平均國營事業費は約八十円であつて勿論維
持管理の諸費は之に包含して居る以上土地均し等一切の整備費は耕
作者が支出するから全体では一段當り二百円内外にとゞめて居る

政府の投下資金は當初の法律では五十兩年賦を以て移住民等
より償還する規定であつたが一九二三年から二十箇年賦に変更し一九二四
年には四十箇年賦とすることが出来た様に改められた。維持管理等の費
用も實費で毎年徴収することに成つて居る

之等の開墾地の大部分は國有地であつて移住者は上記の年賦金
を完納すれば完全な土地所有者と成り得る制度である

米國では農産物の生産過剩等の問題があり且つ日本の農業
と異り世界共通の作物が多い關係から海外農業の影響も
年に依つて頗る大であるから一部の論者は過度の開墾奨励を手
控へようとする必要ありと論じて居る様であるが西部地方の様には未
開で人口稀薄な地方に對して灌漑施設を爲すことは資源
を開発し國土を培養し地方繁榮を期する唯一の策である
から之等の説に動かさるべきものでないことを云ふことは一致し
消極論に對しては農業經營、農産市場の改善、農産物運輸分配
等他の方面から別途に研究を重ねて居る様である

和蘭の開墾事業は灌漑本位であつて排水本位であつた十七世紀
時代は既に既に数千町歩餘の大規模な手拓事業を各地方
に於て完成し一八五二年にはハーレム手拓と稱し海面下五
米突餘の湖底一萬八千町歩を沃土に化した開墾史上有名な
歴史を有する國民であるハーレム手拓の成功を見て百

尺竿頭更に歩を進めツイター海干拓の論が其頃から起る然しツイター海は其の面積五十五万町歩もある湾形の海面であつて其の深さこそハーレムと大差はないが北海に直面し施行も容易でないから其の計畫も複雑で事業の實現を見るのは困難であつたが一八九二年ツイター海干拓調査會の答申案に依つて基礎計畫が決定した。答申事項中見逃す可からざることは「此種事業は宜しく政府直轄の施設に俟つを要す」と結論せる事柄である此の計畫は一般に是認するところとなつたけれども和蘭の國狀は世界大戰迄之が實現を許さなかつた。戰時中和蘭は戰禍を免れたけれども失業者が續出したのと國內農産物増殖の必要を一層痛感せると一方には本國人口七百万に對し連年十万余の人口増加等の事實に鑑み一九一八年の議會は政府の干拓計畫案を協賛し一九一九年は施行準備に費し一九二〇年から干拓工事を開始す

るに到つた。

計畫の梗概は灣口の比較的狭い部分を選んで海面締切の堤防を築造し其の内部に包容する海面三十三万町歩中十萬町歩の海面を保留し二十三萬町歩を農地に拓く豫定であつて工事年率は三十三年とし総豫算は四億四千万円を計上して居る。此の海面締切り本堤は延長七里半に亘り此の事業費は七千餘万円に上る豫定であるが此の堤防が出来れば内部の干拓を遂行する外に附帶効果として同國全般の交通組織、低地の排水事に莫大の利益を齎す結果とならう之は國家の負擔とし其の構築費を控除し残りの総事業費三億七千万円を二十三萬町歩の干拓區に課し干拓成るの後に適當なる希望者に拂下がり自作農家を扶植する方針を樹て、后々從之に従當り拂下が價格は平均百六十円餘と成る次第である。本干拓完成の後には和蘭の農事利用地は約一割を増加する。

と 兒 澤 山

(一) 榮養と妊娠の関係

榮養状態	妊娠回数 (妊婦一人当り)	妊娠ニヨル死亡率 (妊娠回数ニ対スル)
良	3.4	28.3%
中	4.5	31.9%
不良	5.3	48.6%
平均	4.1	32.9%

(二) 母と子女の榮養関係

母の榮養状態	子女の榮養状態			
良 9.1%	良 2.9%	中 2.9%	不良 2.9%	
中 72.7%	良 23.6%	中 44.1%	不良 2.9%	
不良 18.2%	良 2.9%	中 8.9%	不良 8.9%	
合計	29.4%	55.9%	14.7%	

(三) 母の榮養状態と子女の 疾患及死亡の関係

	母の榮養状態			子女の榮養状態			子女の疾患
	良	中	不良	良	中	不良	
子女を知り る母	4.6%	40.9%	—	14.7%	23.5%	5.9%	17.6%
子女が 母	4.6%	31.8%	18.1%	17.6%	27.4%	8.9%	26.0%

(此調査は佐伯矩博士指導の下に警視廳保健衛生調査会実地調査に於て高島技師以下係員が精確な調査を行ひたるものの中より摘録したるものなり)

計算である同國政府が割の利増地の増加の爲に斯程の努力と経費の支出を惜まざる點は對しては大に考究を要する次第であると思ふ。

不良養栄

婦人よ

数多くして弱い子供を生むを
数少くして丈夫な子供を生むを
何れを敬するか？

何れが又経済的なるや？

不良養栄の母は妊娠率高し
不良養栄の母は妊娠に因る死亡率高し
不良養栄の母の児は虚弱なり
以上は美食するも病氣の爲め不良養栄の
状態にある母に於て同断の事

之に反して
優良養栄の母は妊娠率低し
優良養栄の母は妊娠に因る死亡率低し
優良養栄の母の児は強健なり
丈夫な児は必ず優良養栄の母から生れる
妊娠ビタミン(E又はX)は主として植物
性食品中に含まる

第四回總會順序

一、會長開會ノ宣告 二、議事

1. 食糧部答申

「大規模開墾ヲ促進スル爲其ノ用排
水主要工事ヲ國營ニテ施行スルコト」

幹事朗讀

食糧部長報告

特別委員長説明(林伯爵代矢作博士)

質問
討論
採決

2. 人口部答申

「人口統制ニ関スル諸方策」

「生産力増進ニ関スル方策」

一括議題ニ供ス

幹事朗讀

人口部長報告

特別委員長説明（藤村男爵）

質問
討論
採決

三. 會長閉會、宣告

福 壽 全

大藏書記官
農林省農務局長
農林省水產局長
農林省畜產局長
農林書記官
商工書記官
逓信書記官
鐵道書記官
拓務書記官
川越 犬雄
松本 貞一
○長瀬 貞一
久戸田 保思
久山 中 龍太郎
村中 龍太郎
○樺戸 龍太郎
長川 豊樹
○前原 憲
○北島 謙次郎

書記

内閣 属 ○竹下一郎
 同 属 ○石井善藏
 同 属 ○松澤辰藏
 同 属 ○池之上武雄
 法制局属 ○大森喜之助
 外務書記生 ○臼井健
 内務属 ○村田福次郎
 社会局属 ○天谷健二
 同 ○千田尊平

大藏 属 ○堤光芳
 農林 属 ○笹山茂太郎
 同 属 ○伊原慶治
 同 属 ○伊原茂太郎
 商工 属 ○荒川浩
 遞信 属 ○内山總一郎
 鐵道 属 ○横田重嘉
 拓務 属 ○横田重嘉

關係官

社会局事務官 安積得也
 人食・福祉 小田通敏
 陸軍上等科長 丸本彰造
 農林技師 有働良夫
 同 可知貫一
 同 根井申生
 同 岡出幸生
 農林技師 八倉光南

農林省事務官 小松建三郎